

「中国地方の地形環境 2」

－ 山口県 －

大 竹 義 則  
林 正 久

Geomorphic Environments in the Chugoku District, Japan - 2

OTAKE Yoshinori  
HAYASHI Masahisa

# 中国地方の地形環境 2

## — 山口県 —

大竹義則 (徳山大学経済学部)・林 正久 (島根大学教育学部)

OTAKE Yoshinori

HAYASHI Masahisa

### はじめに

本研究は、中国地方の地形を対象にして、野外調査・文献調査によって、各種地形の分布特性や形態的・成因的特性を把握し、地域の自然環境の中で地形の果たす役割を正當に評価することを目的としている。

本稿は、前回の報告<sup>1)</sup>に引き続いて、山口県域の各種地形について、その分布や形状・規模、地形のタイプやその特徴、地形環境としての重要度や稀少性、地形改変や破壊の現状等について、現地調査の結果を付加し、データベース化したものである。

地形の選定基準や一覧表の記載基準等については、前報告書<sup>1)</sup>に掲載したのでここでは割愛する。なお、個々の地形を特定するため各地形に割り当てたコード(地形種の略号—地形項目の略号—地形項目をさらに細分化した地形タイプの番号—同じタイプの地形に割り当てた固有番号—地形所在県の略号)の内、地形項目の略号及び地形タイプの番号の詳細については、前回触れなかったため、以下に掲載しておく。

地形項目の略号及び地形タイプの番号一覧

地形種	地形項目	地形タイプ
Tec: 変動地形	falt	1: 活断層崖 2: 地震断層崖 3: その他の断層崖 4: 衝上断層
	mari	1: 隆起波食棚 2: 隆起海食洞
Vol: 火山地形	mt	1: 溶岩円頂丘
	cal	1: カルデラ
	cra	1: 火口湖
	lava	1: 溶岩台地 2: 溶岩平頂丘
	phm	1: 火山碎屑丘
	plat	1: 火山性高原
	pyro	1: 火砕流台地
	vfan	1: 火山麓扇状地
	tun	1: 溶岩トンネル
Str: 地質を反映した地形	cars	1: カルスト台地 2: カッレンフェルト 3: ドリーネ 4: ウバーレ 5: ポリエ 6: 鍾乳洞 7: 石灰華段丘
	capr	1: 平頂峰 (キャップロック)
	mesa	1: メサ
	res	1: 残丘
	rock	1: 岩峰・岩峰群
	ston	1: 奇岩怪石・巨石群
	brid	1: 天然橋・岩門・石門
	join	1: 柱状節理

1) 大竹義則・林正久 (2006) 「中国地方の地形環境 1—鳥取県・島根県・岡山県—」徳山大学総合研究所紀要, vol. 27・28, pp. 19—74。

Str: 地質を反映した地形	badl	1: バッドランド (侵食作用)	
	slip	1: 地滑り地 2: 地滑りによって生じた凹地・池 3: 千枚田	
	tafo	1: 蜂の巣状構造	
Flu: 河川地形	cany	1: 峡谷	
	fall	1: 滝及び滝壺	
	pool	1: ナメ・淵 2: 滞	
	riff	1: 瀬	
	poth	1: 甌穴群 (ポットホール)	
	pila	1: 土柱	
	mean	1: 穿入蛇行 2: 環流丘陵	
	pira	1: 河川争奪地形	
	wgap	1: 風隙	
	divv	1: 谷中分水界	
	lake	1: 堰止め湖	
	plan	1: 谷底平野	
	bury	1: 埋積谷	
	terr	1: 河岸段丘及び段丘崖	
	fan	1: 扇状地	
	cone	1: 沖積錐	
	brai	1: 網状流	
	rbed	1: 天井川	
	dry	1: 水無川	
	sprg	1: 湧泉・湧泉群	
	leve	1: 自然堤防	
	old	1: 旧河道 2: 落堀	
	back	1: 後背湿地	
	delt	1: 三角洲	
	mud	1: マッドランプ	
	Coa: 海岸地形	isl	1: 多島海
		rias	1: リアス海岸 (沈水海岸)
coas		1: 岩石海岸	
benc		1: 波食棚 (波食台)	
mqe		1: 鬼の洗濯岩 (ミクロケスタ)	
mter		1: 海成段丘	
clif		1: 海食崖	
cave		1: 海食洞	
notc		1: ノッチ (波食窪)	
bhol		1: 潮吹き穴	
poth		1: 甌穴群 (ポットホール)	
reef		1: 岩礁	
beac		1: 砂浜 2: 浜堤	
bar		1: 砂州	
spit		1: 砂嘴	
tomb		1: トンボロ及び陸繋島	
dune		1: 砂丘・風紋	
lago		1: 潟湖 (ラグーン)	
tida		1: 干潟	

Cli：気候地形	bflo colv	1：岩塊流（岩塊斜面を含む） 1：麓斜面
Mis：その他の地形	pene jagg slid debr tals pedm wcav iron pond crop	1：隆起準平原 2：準平原遺物 1：裾歯状山稜 1：大規模崩壊地 2：崩壊地 1：土石流堆積地形 1：崖錐 1：ペディメント 1：風穴 1：鉄穴流し跡 1：高層湿原・池塘 2：中間湿原 3：低層湿原 1：断層露頭 2：その他の露頭

## 山口県の地形

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
菊川断層	変動地形 > 活断層崖	Tec-falt-1-1-YAGC	③	中線	B
所在地		図幅名			
山口県 豊浦郡菊川町・豊浦町		2.5万 田部(山口)・小串(小串)			
解説	<p>菊川断層は、山口県西部の菊川町から北西方向に走り、豊浦町で響灘に没する長さ約27km、確実度I(確実な断層)、活動度B(平均して千年間に0.1~1mの変位速度を持つ)にランクされる活断層。北西部では、響灘に面する二見の直線的な海岸線となっている。近年の報告では、響灘の海底地形にも断層の延長が認められるという。</p> <p>断層地形としては、断層線に沿って直線的に延びる谷が、峠(貴飯峠)越えに続き、北東側の断層崖地形が際立っている。菊川町藤内畑では、南西側の丘陵の斜面がとぎれ、断層谷中を流れる川が不自然に南西方向に流下しており、小谷の上流と下流が断層付近で左にずれている(オフセット)のが分かる。総量として北東側が150m以上隆起し、水平方向には、580m以下の左横ずれがあったとされている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
岩国断層	変動地形 > 活断層崖	Tec-falt-1-2-YAGC	④	中線	B
所在地		図幅名			
山口県 岩国市・玖珂郡玖珂町		2.5万 岩国・玖珂(広島)			
解説	<p>小方-小瀬断層に平行して岩国市から玖珂町にかけてNE-SW方向に延びる長さ約10km、確実度I(確実な断層)、活動度B(平均して千年間に0.1~1mの変位速度を持つ)の断層。右横ずれを示す。</p> <p>J R岩徳線川西駅の南西にある谷から始まる明瞭な直線状谷が、標高300m級の山地の中を断続的に続き、玖珂盆地東端にある丘陵の南西向き斜面に達している。この断層谷中を欽明路(県道岩国・玖珂線)やJ R岩徳線が通っている。</p> <p>見よ→小方-小瀬断層:Tec-falt-1-3-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
小方-小瀬断層	変動地形 > 活断層崖	Tec-falt-1-3-YAGC	③	中線	B
所在地		図幅名			
山口県 玖珂郡周東町・玖珂町・岩国市・広島県 大竹市		2.5万 大竹・岩国・玖珂(広島)			
解説	<p>小方-小瀬断層は、広島県大竹市小方の海岸付近から南西方向に走り、山口県岩国市を経て、玖珂町に至る長さ約26km、確実度I(確実な断層)、活動度B(平均して千年間に0.1~1mの変位速度を持つ)の活断層。断層西側が約200m隆起し、水平方向では300m以下の右横ずれがあったとされる。この断層の南東側に2~3kmを隔てて、岩国断層が併走している。</p> <p>大竹市街地の北方の小方付近や玖珂盆地北方の蓮華山(標高576.4m)南東山麓では、顕著な直線状の谷と切り離された閉塞丘陵が連続している。また、短い区間ではあるが、錦川や小瀬川の本流も、この断層に沿って直線的に流下している。</p> <p>山陽新幹線・山陽自動車道も、時に断層と交叉しながら併走し、山陽新幹線の新岩国駅もほぼ断層線上に位置する。</p> <p>見よ→岩国断層:Tec-falt-1-2-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
野坂山	火山地形 > 溶岩円頂丘	Vol-mt-1-1-YAGC	④	中	A
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡阿東町・島根県 鹿足郡津和野町		2.5万 津和野(山口)			
解説	<p>山口県阿武郡阿東町徳佐上と島根県鹿足郡津和野町の県境に位置する溶岩円頂丘(標高640.2m)。島根県津和野町の青野山を代表とする溶岩円頂丘群(青野火山群・西部火山列)に属する。山頂部と山麓部は緩傾斜になっている。山体の開析はあまり進んでいない。野坂山の西には、500~600mの山頂を持つ溶岩円頂丘が連なっており、一連の火山体を形成している。</p> <p>山口県の徳佐盆地の北端を限るこの火山体の出現によって、それまで北流し、益田川を通じて日本海に流出していた徳佐盆地の水系は、南流して盆地の南端から長門峡を経て阿武川へ流入する水系となった。</p> <p>見よ→徳佐盆地北部:Flu-bury-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
鍋山	火山地形 > 溶岩円頂丘	Vol-mt-1-2-YAGC	④	中	B
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡福栄村紫福		2.5万 長門広瀬(山口)			
解説	<p>萩市周辺から東~北方にかけて分布する阿武単成火山群に属する小火山。阿武単成火山群を構成する火山は、溶岩平頂丘ないし溶岩台地タイプが多いが、この鍋山(標高366.4m)は玄武岩質岩石からなる溶岩円頂丘である。</p> <p>福栄村紫福の小盆地中に、ゆるやかな山頂部をもち、鍋を伏せた特徴ある山容を呈し、よく目立つ(盆地底からの比高は約200m)。かつては加工が容易な石材(鍋山石)として採掘されていた。山体の西麓には、鍋山の噴火によって堰き止められ形成された湖(堰止め湖)が、小埋積谷となって残っている。</p> <p>見よ→宇生賀盆地:Flu-bury-1-2-YAGC</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
金峰山 きんぽうさん	火山地形 > 溶岩円頂丘	Vol-mt-1-3-YAGC	④	中	A
所在地		図幅名			
山口県 徳山市		2.5万 周防鹿野 (山口)			
解説	<p>青野火山群に属する標高789.9mの安山岩質の溶岩円頂丘。山頂部までかなり開析が進んでいる。形成時期は、43万年前あるいは60万年前と推定されている。周囲には、ほぼ同時期に形成された四熊ヶ岳・獄山・千石岳・白井岳・円山などの青野山火山群の東部山列を構成する溶岩円頂丘が分布する。これらの中で金峰山は最も規模が大きい。</p> <p>山名は、音読みで「きんぼうざん」と呼ばれることもある。かつては農家の草刈山で、春先には山焼きが行われていた。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
笠山 かさ	火山地形 > 火山砕屑丘・火口	Vol-phm-1-1-YAGC	③	中	B
所在地		図幅名			
山口県 萩市		2.5万 越ヶ浜 (山口)			
解説	<p>萩市周辺から東～北方にかけて分布する阿武単成火山群に属する小火山。半島状に突き出た、1万1千年前に噴出した玄武岩質安山岩の溶岩台地がこの火山の底部をなし、その上に比高60m程のスコリア丘（スコリアから構成される火山砕屑丘の一種、標高112.2m）がのっている。スコリア丘は8,800年ほど前に形成された新しい火山で、頂上には直径30m程の明瞭な火口がある。</p> <p>火口の内部は見学することができる。溶岩台地の東部には、溶岩中に形成された風穴（笠山風穴）もある。溶岩台地の東端は、トンボロの形成によって本土と陸続きとなり、半島状（陸繋島）となっている。</p> <p>山名の由来は、溶岩台地にスコリア丘をのせた形が、萩市菊ヶ浜海岸から眺めると市女笠に似ていることから名付けられたと言われる。北長門海岸国立公園に属し、地質・地形・植生など自然景観を生かした観光地となっている。</p> <p>見よ→越ヶ浜と笠島：Coa-tomb-1-2-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
伏馬山 ふま	火山地形 > 火山砕屑丘・火口	Vol-phm-1-2-YAGC	④	中	C
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡むつみ村		2.5万 長門広瀬 (山口)			
解説	<p>萩市周辺から東～北方にかけて分布する阿武単成火山群に属する小火山。阿武単成火山群には、特徴的な溶岩平頂丘ないし溶岩台地タイプの火山に交ざって、10個以上の火山砕屑丘（スコリア丘）が分布している。</p> <p>伏馬山は、むつみ村の吉部盆地の中にあつて、人目に付く姿の美しい火山砕屑丘（スコリア丘）である。標高499.1m、底面径約600m。山体の開析はあまり進んでいない。山頂に火口と見られる南に開いた小凹地地形があるが、人為改変を受け原形をあまり残していない。</p> <p>車で上る登山道があり、山頂付近は展望が開ける。電波塔やキャンプ施設などが作られ、行楽地化している。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
鶴江台 つるえ	火山地形 > 溶岩台地	Vol-lava-1-1-YAGC	③	中	B
所在地		図幅名			
山口県 萩市		2.5万 越ヶ浜 (山口)			
解説	<p>萩三角州の北東端、阿武川の派川・松本川の河口の対岸に位置し、日本海に丸く突き出た半島状の小溶岩台地。阿武単成火山群に属する溶岩台地（玄武岩質）で、中期更新世（19万年前頃）に形成された。台地面は中央が高く（最高点47.9m）周辺に向かって緩やかに低下する。日本海に面する側には高さ10～25mの海食崖が発達する。</p> <p>内陸側は、嘉永5（1852）～安政2（1855）年、西の松本川と東の戎ヶ鼻港間に、洪水時の水勢緩和や舟運の便を図るための運河（姥倉運河）が開削されたため、現在は運河を隔てて島状になっている。台地面はほとんどが果樹園として利用されている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大島 おほしま	火山地形 > 溶岩平頂丘	Vol-lava-2-1-YAGC	③	中	B
所在地		図幅名			
山口県 萩市大島		2.5万 櫃島・越ヶ浜 (山口)			
解説	<p>萩市周辺から東～北方にかけて分布する阿武単成火山群に属する溶岩平頂丘（安山岩～デイサイト質）からなる島。面積3.09km<sup>2</sup>。形成期は、19万年あるいは21万年前。平頂丘のトップは、かなり小起伏となっており、南部の標高120m程度から北部の80mまで緩やかに低下する。所々に凹地が見られる。</p> <p>台地上は防風林をめぐらした耕地。周囲は南部を除いて海食崖で取り巻かれ、海食洞などが見られる。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
西台	火山地形 > 溶岩平頂丘	Vol-lava-2-2-YAGC	③	中	B
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡むつみ村・阿武町		2.5万 長門広瀬・宇田(山口)			
解説	萩市周辺から東～北方にかけて分布する阿武単成火山群に属する溶岩平頂丘(安山岩～デイサイト質)。平頂丘は、台地状を呈し、標高500～550m。形成期は後期更新世。西台の東方には、同じ溶岩平頂丘の東台が連なる。西台は採草地や畑、東台は畑として利用され、南側斜面は自衛隊の演習地となっている。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
羽賀台	火山地形 > 溶岩平頂丘	Vol-lava-2-3-YAGC	*③	中	B
所在地		図幅名			
山口県 萩市, 阿武郡福栄村		2.5万 越ヶ浜(山口)			
解説	羽賀ノ台とも呼ばれる。萩市周辺から東～北方にかけて分布する阿武単成火山群に属する溶岩平頂丘(安山岩～デイサイト質)。後期更新世に形成された溶岩平頂丘で、北東～南西方向に長円状を呈す。頂面は何段かの小起伏～ほぼ平坦な地形からなり、複雑な形態を呈する。比較的起伏が大きく中央部に凹地を持つ350～290m面、ほぼ平坦で南に緩く傾斜する280～270m面、これらの周辺に分布する小規模な緩傾斜面などで構成されている。溶岩平頂丘の周辺には、平頂丘の形成によって、川が堰き止められ、後に土砂によって埋積された小埋積谷がいくつか分布する(上蕨野、下蕨野、吉田、羽賀など)。 天保14(1843)年、萩藩はこの台上で大規模な演習を行った。大正期に建てられた「天保関兵の地」の碑が台上に残されている。平坦な280～270m面は、主として畑地として利用されている。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
秋吉台	地質を反映した地形 > カルスト台地	Str-cars-1-1-YAGC	①	大	B
所在地		図幅名			
山口県 美祢市・美祢郡秋芳町・美東町		5万 山口・西市(山口)			
解説	秋吉台は日本で最大のカルスト台地である。秋吉石灰岩地域は、東西約18km、南北約8km、広さ約130km <sup>2</sup> におよび、南流する厚東川によって東西に二分される。このうち、東部が秋吉台(東秋吉台、東の台とも呼ばれる)であり、西部は江原台・於福台・岩永台からなり、西秋吉台あるいは西の台と呼ばれる。 秋吉台は、標高150～425mに分布し、4段の段化した地形面が認められる。各段は、標高350～410mの地獄台面、300mの長者ヶ森面、250m前後の若竹原面、200m内外の経塚面に区分され、周辺山地の小起伏面の高度とほぼ一致する。台地上にはドリーネ、ウパーレ、ポリエ、カッレンフェルト、ポソールなどカルスト地形の諸要素がよく発達しており、台地下には秋芳洞をはじめとする多くの鍾乳洞(石灰洞)が存在する。 秋吉台を構成する石灰岩は、南方の太平洋のかなたで形成された石灰礁が、プレートの移動によって北上し、ペルム紀中期頃に日本列島に付加したものと考えられている。 台地面の利用は、古代から始まり、中世以降、草刈り場・山の窪畑として利用されたとみられており、藩政時代には文献にもはっきりと記載されている。明治になると、台地中心部が陸軍の演習場として使用を開始された。第2次大戦後は、昭和29年頃まで、占領軍によって引き続き演習場として利用された。日本への返還後は、陸上自衛隊の演習地となったが、昭和32年末に無条件で返還された。一方、窪畑も戦後しばらくして社会経済情勢の変化により、秋吉台ではほとんど放棄された。秋吉台では早春に山焼きが行われ、台地面の草原が維持されている。その始まりがいつ頃かは明確ではないが、昭和の初め頃から、各村役場が音頭を取って一斉に行うようになった。 秋吉台は昭和36年10月、国の天然記念物に指定され、昭和39年7月には、特別天然記念物に指定された。また、一帯は、昭和30年11月、秋吉台国定公園にも指定されている。台地上には昭和45年、秋吉台有料道路が完成し、科学博物館・観光諸施設等もあり、周辺を含めて一帯は一大観光地となっている。 見よ→地獄台: Str-cars-2-1-YAGC, 出来水ウパーレ: Str-cars-4-1-YAGC, 帰水ウパーレ: Str-cars-4-2-YAGC, 帰水ドリーネ: Str-cars-3-1-YAGC, 鬼の穴: Str-cars-3-2-YAGC, 木の窪: Str-cars-3-3-YAGC, 秋芳洞: Str-cars-6-1-YAGC, 大正洞: Str-cars-6-2-YAGC, 景清洞: Str-cars-6-3-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
地獄台	地質を反映した地形 > カッレンフェルト	Str-cars-2-1-YAGC	①	中	B
所在地		図幅名			
山口県 美祢郡秋芳町		2.5万 秋吉台北部(山口)			
解説	秋吉台の中央付近にあるカッレンフェルト(石塔原)。非結晶質の緻密で硬い古生界の秋吉石灰岩層群が分布し、カッレン(ラビエ、石塔)が林立している。 日本のような温暖多雨地帯では、厚い残留土壌に覆われた「被覆カルスト」が多いが、地獄台は起伏が大きく、地下溶食が盛んなため、土壌は流出して石灰岩の露出した「裸出カルスト」となっている。カッレンの表面には条溝型・水溝型・迷路型などいくつかのタイプの小溝が発達している。 地獄台は、秋吉台の中で一番早く国の天然記念物に指定された(「秋吉台山の地獄」として昭和3年2月指定。昭和36年10月、秋吉台全体が天然記念物に指定されたため解除された。) 見よ→秋吉台: Str-cars-1-1-YAGC				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
嘉万ポリエ	地質を反映した地形 > ポリエ	Str-cars-5-1-YAGC	③	中	B
所在地		図 幅 名			
山口県 美祿郡秋芳町		2.5万 秋吉台北部 (山口)			
解説	カルスト台地・秋吉台の西部にある縁辺ポリエ。ポリエの中を厚東川が南に流下し、南北に細長く延びる。ポリエの北部では、東側はカルスト台地 (十南台) に、西側は非石灰岩の花尾山山塊に挟まれている。ポリエの南部は、東が秋吉台 (東の台)、西が江原台 (西秋吉台、西の台) に囲まれている。ポリエの南端では、厚東川が2つの石灰岩台地の間を貫通河川となっており、峡谷状に流下している。				
	ポリエ底は、嘉万市の集落や肥沃な水田地帯となっている。地下にも石灰岩があり、「ジバス」と呼ばれる陥没ができることがある。 見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
青景ポリエ	地質を反映した地形 > ポリエ	Str-cars-5-2-YAGC	②	中	B
所在地		図 幅 名			
山口県 美祿郡秋芳町		2.5万 秋吉台北部 (山口)			
解説	秋吉台と南北に細長く延びる十南台の二つのカルスト台地に挟まれた、南北に細長く広がるポリエ。急峻な台地斜面によってその東西を限られた典型的なポリエ。東西幅は200～500mで、南に傾斜し、厚東川の支流青景川が流下する。ポリエ底は肥沃な水田地帯となっている。				
	見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
中原ポリエ	地質を反映した地形 > ポリエ	Str-cars-5-3-YAGC	③	中	B
所在地		図 幅 名			
山口県 美祿郡美東町		2.5万 秋吉台北部 (山口)			
解説	秋吉台北東部に位置し、北西から南東に細長く延びる縁辺ポリエ。ポリエの北東部などには非石灰岩丘陵が広がる。周囲の石灰岩地域は丘陵状で、斜面下部には開析を受けた洪積台地を以てポリエ底に移行する。				
	緩やかな起伏の洪積台地には、集落が位置し、畑作が行われている。ポリエ底には山崎川が南南東に流下しており、大部分が水田となっている。 見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
出来水ウパーレ	地質を反映した地形 > ウパーレ	Str-cars-4-1-YAGC	②	中	B
所在地		図 幅 名			
山口県 美祿郡秋芳町		2.5万 於福 (山口)			
解説	秋芳洞の洞口から北西へ約2.5kmのところにあるウパーレ。約400m四方の凹地には、数多くのドリーネが存在する。ドリーネは全体として北西-南東方向に配列し、中心部のドリーネほど規模も大きく、深い凹みとなっている。				
	出来水ウパーレの南西方向と北東方向には、ドリーネの連続する凹地が細長く続いており、南東では鬼の穴・なかじやくり・矢ノ穴ドリーネ群、北東では地獄谷ウパーレにつながっている。このため、地獄谷-出来水-矢ノ穴と連続する一連の凹地を一つの巨大なウパーレと見ることが出来る。 ドリーネの名称「出来水」は、梅雨末期などの大雨の後に地下水位が上がり、ドリーネ底に水がたまることから名付けられた。 見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
帰水ウパーレ	地質を反映した地形 > ウパーレ	Str-cars-4-2-YAGC	③	中	B
所在地		図 幅 名			
山口県 美祿郡秋芳町		2.5万 於福 (山口)			
解説	秋吉台の北部、地獄台と真名ヶ岳台の間にあるウパーレ。いくつものドリーネが連続し、全体として北西-南東方向に延びる凹地となっている。長さ約1.8km、幅は最大で200m程度。中間地点に、このウパーレ中で最も規模の大きいドリーネ (帰水ドリーネ) がある。ウパーレは北西端で、Yの字状に二手に分岐している。本ウパーレは、石灰岩の節理や断層に沿ってドリーネが連続形成された地形で、典型的なウパーレとは言い難い。				
	見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC、帰水ドリーネ：Str-cars-3-1-YAGC				



名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
かきろみず 帰水ドリーネ	地質を反映した地形 > ドリーネ	Str-cars-3-1-YAGC	②	中	B
所在地		図幅名			
山口県 美祿郡秋芳町		2.5万 秋吉台北部(山口)			
解説	秋吉台の北部、北西-南東方向に延びる帰水ウパーレの中心部に位置するドリーネ。長さ約600m、幅は最大で約200mの長円形のすり鉢状凹地となっている。北西-南東方向に延びるウパーレの軸方向とはやや異なって、ほぼ東西方向に長軸を持つ。 ドリーネの名称「帰水」は、梅雨末期などの大雨の後に地下水水位が上がり、ドリーネ底に水がたまることから名付けられた。 見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC, 帰水ウパーレ：Str-cars-4-2-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
おに 鬼の穴	地質を反映した地形 > ドリーネ	Str-cars-3-2-YAGC	②	中	B
所在地		図幅名			
山口県 美祿郡秋芳町		2.5万 秋吉台(山口)			
解説	秋吉台の南部、秋芳洞の洞口から北西約1kmにあるドリーネ。秋芳洞の洞口の北部には、北東-南西方向に、なかじやくり・矢ノ穴・鷹穴などのドリーネ群が列んでいる。中央の矢ノ穴ドリーネから、北北西方向に浅い凹みが延び、規模の大きいドリーネに連なる。このドリーネが鬼の穴ドリーネである。北北東-南南西方向に長軸をもち、長径約350m、短径約200m。深さは連続した凹地から見ても40mを超える。鬼の穴ドリーネから北西方向へは、大小のドリーネが連続した凹地となっており、出水ウパーレに至る。 見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
きば 木の窟	地質を反映した地形 > ドリーネ	Str-cars-3-3-YAGC	③	中S	B
所在地		図幅名			
山口県 美祿郡秋芳町		2.5万 秋吉台(山口)			
解説	秋吉台の南部、秋芳洞の洞口から西へ約600mのところにあるドリーネ。比較的起伏の小さな若竹原面(付近の標高215m)にある、径100m強、深さ30m強の円形に近いすり鉢状のドリーネ。 この付近は、毎年恒例の山焼きが行われておらず、一帯は森林に覆われており、見通しはよくない。 見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
あきよし 秋芳洞	地質を反映した地形 > 鍾乳洞	Str-cars-6-1-YAGC	①	線U	B
所在地		図幅名			
山口県 美祿郡秋芳町		2.5万 秋吉台(山口)			
解説	秋吉台で最もよく知られた鍾乳洞(石灰洞)。かつて「滝穴」と呼ばれ、「しゅうほうどう」とも呼ばれる。秋吉台の南端にある広谷ボリエ北西部に洞口がある。 地下河川型の洞窟で、秋吉台の地獄台以南を集水域とし、一日の平均水量は4万m <sup>3</sup> 。入洞できる延長約1.2kmで、わが国最大の鍾乳洞である。洞内の最も広いところは幅80m、水面からの高さ30mあまり。洞内には鍾乳石・石筍・石柱・石灰華段などの二次生成物が見られる。石柱(石灰石柱)としては、高さ28m、直径8mの黄金柱(旧称、こがねばしら)がよく知られている。石灰華段丘(石灰華段)としては、百枚皿がある。 大正11年3月、景清穴とともに国の天然記念物に指定され(当時の名称は「秋吉村瀧穴」)、昭和27年3月、日本の石灰洞中最大のものであるとして、国の特別天然記念物に指定された。秋芳洞は山口県の主要な観光資源となっており、遊歩道や照明施設の他、エレベーター(昭和30年、洞内の黄金柱の近くと台地上を結ぶ)や人工トンネル(昭和38年、黒谷支洞と駐車場となっている矢ノ穴ドリーネ底とを結ぶ)なども設置されている。このため、洞内気流の発生や人や動物による種子の運搬等によって、洞内環境に影響がでている。 見よ→秋吉台：Str-cars-1-1-YAGC, 百枚皿：Str-cars-7-1-YAGC				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大正洞 <small>たいしょうどう</small>	地質を反映した地形 > 鍾乳洞	Str-cars-6-2-YAGC	②	線U	B
所在地		図幅名			
山口県 美祿郡美東町		2.5万 秋吉台北部(山口)			
解説	秋吉台の北東部、佐山ボリエ南西端に近い犬ヶ森の谷に開口する鍾乳洞。洞口から約100mは、戦乱の時、牛を隠したと伝えられ、「牛隠しノ穴」とも呼ばれた。奥部が大正期に発見され、「大正洞」と名付けられた。				
	上・中・下層の3層に洞窟が発達している。標高170~180mの上層は、「極楽」「高天原」と呼ばれ、石灰華滝(ナイアガラの滝)や異形の石筍(獅子岩)などの二次生成物が発達する。標高160mの中層は、上層に続く連絡洞で網状になっている。標高120mまでの下層は「地獄」と呼ばれ、最深部の「奈落」には地下水流がある。中・下層は溶食形態が卓越し、二次生成物はほとんど発達しない。				
	大正12年3月、国の天然記念物に指定された。牛隠し洞と極楽洞には、昭和31年11月に照明が設けられ、昭和45年には観光客の増加のため、極楽洞の北西部に出口用のトンネルが設けられている。				
	大正洞の南東約200mには、犬ヶ森ポノール(佐山の吸込み穴、大正洞の吸込み穴とも呼ばれる)がある。増水時には、佐山ボリエ北端の景清穴から流出した水流が、三角田川を流下し、ポノール中に滝状に落下する。 見よ→秋吉台: Str-cars-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
景清穴 <small>かげきよあな</small>	地質を反映した地形 > 鍾乳洞	Str-cars-6-3-YAGC	②	線U	B
所在地		図幅名			
山口県 美祿郡美東町		2.5万 秋吉台北部(山口)			
解説	秋吉台の東北部、猪出台下に形成され、佐山ボリエ北部に開口する鍾乳洞。長さ約1500m。洞内は高さ20m、幅30mに及ぶところもある。洞名は壇ノ浦の合戦で敗れた平景清がひそんでいたとの伝説による。「景清洞」「赤の穴」「長生洞」とも呼ばれる。洞床は平らで砂礫が堆積しており、洞の天井は低くて平坦な部分が多い。数段のノッチ(竜の寝床、竜の抜殻)が発達し、溶食形態が観察しやすい。				
	非石灰岩地域に水源を発した三角田川は、三角田ボリエをしばらく南流した後、猪出台北部から三角田洞に入り、地下水流となる。その後、直線で南南西約700mにある景清穴の洞口を出たところから、再び地表の河川となり、佐山ボリエをしばらく流下した後、佐山ボリエの西端、大正洞近くの犬ヶ森ポノールから再び地下にもぐっている。				
	大正11年3月、秋芳洞とともに国の天然記念物に指定された。昭和34年、洞内照明が設けられ、昭和41年、洞内歩道や照明灯が設置されている。旱魃時には、雨乞いとして、佐山側から洞をくぐり抜ける風習がある。				
	見よ→秋吉台: Str-cars-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
百枚皿 <small>ひゃくまいざら</small>	地質を反映した地形 > 石灰華段丘	Str-cars-7-1-YAGC	①	微	B
所在地		図幅名			
山口県 美祿郡秋芳町秋吉		2.5万 秋吉台北部(山口)			
解説	秋芳洞内の二次生成物として形成された鱗状の畔石状有縁池(石灰華段丘)。水を蓄えた大小の皿状の池が、扇状に何層にも積み重なる様から「百枚皿」と名付けられた。洞内には同様な小地形として「千町田」がある。				
	見よ→秋芳洞: Str-cars-6-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
祝島の平頂峰 <small>いわいしま</small>	地質を反映した地形 > 平頂峰(キャップロック)	Str-capr-1-1-YAGC	④	中	A
所在地		図幅名			
山口県 熊毛郡上関町祝島		2.5万 祝島(中津)			
解説	祝島は、山口県南東部の瀬戸内海にあり、付近の島々の中では、平鍋を伏せたような特異な島影を呈し、目立った存在となっている。山頂部は2段の小起伏面(標高270~290m、300~350m)からなる。小起伏山頂面(平頂峰)は、最大幅約500mのL字形の広がりを持つ。面積は広くない。周囲は急斜面に囲まれているが、所々に小段状の地形も見られる。古生代の黒雲母縞状片麻岩が島の基盤をなし、新第三紀の両輝石安山岩がその上を広く覆い、侵食に抗していると考えられる。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
二見の夫婦岩	地質を反映した地形 > 奇岩怪石・巨石群	Str-ston-1-1-YAGC	④	微	A
所在地		図幅名			
山口県 豊浦郡豊北町二見		2.5万 滝部 (小串)			
解説	豊北町二見の立石崎の海上にある大小二つの岩。付近の海岸は、菊川断層の延長上にあり、山地が海に迫り、単調な海岸線となっている。海側には礫の転がる狭い波食棚があり、夫婦岩はその上に位置する塔状の2つの岩礁(離れ岩)で、それぞれ鋭い稜線をもって屹立している。大岩は高さ約9m、小岩は約5m。付近の地層は、白亜紀の下関亜群下部層(砂岩・凝灰質砂岩・礫岩・頁岩)で構成されている。 信仰の対象となっており、2つの石の間に注連縄がかけられている。国道191号線、山陰本線が海岸線に沿って併走しており、観察は容易である。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
立岩	地質を反映した地形 > 奇岩怪石・巨石群	Str-ston-1-2-YAGC	③	微	B
所在地		図幅名			
山口県 大島郡橋町鹿家		2.5万 安下庄 (松山)			
解説	屋代島(周防大島)の中部、東安下庄・鹿家の海岸沿いの小突端に屹立する岩。太さがあまり変わらない塔状の岩で、高さ約40m。両輝石安山岩からなる。下部は裸岩で、脚部にノッチがある。上部にはセッコクが自生する。 信仰の対象となっており、頂部に石の小祠がある。山地が海岸に迫り、立岩と山地斜面の間に道路が通っており、観察しやすい。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大門・小門	地質を反映した地形 > 天然橋・岩門・石門	Str-brid-1-1-YAGC	③	線U	A
所在地		図幅名			
山口県 長門市青海島		2.5万 青海島北部 (山口)			
解説	青海島の北岸、やや西よりある小島(離れ島)に発達した天然橋。大小2つの天然橋があり「大門」「小門」と呼ばれている。大門は高さ17~18m、幅6m。隣の小門は高さ6m、幅約3m。大門付近は堅牢な溶結凝灰岩からなる。小門は島の反対側に貫通する海食洞門である。 小島(離れ島)は陸側の山見鼻との間に、長さ約170mの狭い水道を挟む。この島の周囲はさらに小規模な離れ島(離れ岩)の点在する岩礁(海食棚)が広がっている。 海岸での波の選択的侵食によって形成される地形として、海食洞・海食洞門・天然橋などがあるが、ここでは、洞窟が反対側に貫通していないものを海食洞、貫通するものを海食洞門または天然橋に分類し、洞口の大きさに比べ、相対的に洞の奥行き短いものを天然橋、長いものを海食洞門に分類している。 大正15年10月、国の名勝・天然記念物に指定された。北長門海岸国定公園の一部である。島を一周する観光船があり、岩石海岸の地形を観察することが出来る。 見よ→青海島北岸: Coa-coas-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
鼻線岩	地質を反映した地形 > 天然橋・岩門・石門	Str-brid-1-2-YAGC	④	線U	A
所在地		図幅名			
山口県 長門市青海島		2.5万 仙崎 (山口)			
解説	青海島南西端の離れ島にある天然橋。付近の海域を鼻線浦という。鼻線岩は海食作用によって陸から切り離された、東西が70mほどの細長い小島で、南北の面は切り立った崖となっている。その中央下部にやや小さめのくつきりとした空洞があって、水平線を見通すことが出来る。名称の鼻線は、牛の鼻の両穴を貫いてかける環状の木で、鼻輪とも呼ばれるもので、類似した地形にしばしば名付けられている(下松市の笠戸島など)。 青海島は、大正15年10月、国の名勝・天然記念物に指定された。北長門海岸国定公園の一部でもある。島を一周する観光船があり、船から観察することが出来る。 見よ→青海島北岸: Coa-coas-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
俵島の柱状節理	地質を反映した地形 > 柱状節理	Str-join-1-1-YAGC	*②	小	A
所在地		図幅名			
山口県 大津郡油谷町油谷島		2.5万 阿川 (小串)			
解説	俵島は向津具半島の最西端にある面積0.01km <sup>2</sup> の小島である。周囲は海食崖に囲まれ、全長約900m、最高地点の標高約30m。向津具半島とは礫州によって陸繋化されている。全島アルカリ玄武岩(鮮新統)からなる。海食によって削り出された玄武岩の柱状節理が全島に発達している。西端の海食棚には、節理の断面が見事な亀甲模様をなしている。名称の由来は、上から見下ろしたときに見える、米俵を積み上げたような外観による。 高原瀬・平瀬などの周囲の瀬や岩礁を含めて、昭和2年6月、国の名勝および天然記念物に指定されている。島には無人灯台があり、島へ渡る礫州には、コンクリートの板や飛び石が設置されている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
たまたがふら 壘ヶ淵	地質を反映した地形 > 柱状節理	Str-join-1-2-YAGC	*③	線	B
所在地		図 幅 名			
山口県 阿武郡須佐町鈴野川		2.5万 長門新市(山口)			
解 説	山口県北東部に日本海に流出する田万川の上流(須佐町鈴野川)に見られる柱状節理。柱状節理は田万川の河床や河岸に沿って分布しており、長さ約2km、高さは十数mに達するという。				
	この付近の地形は、洪積世に噴出した溶岩(玄武岩)が田万川の河谷に流れ込んで埋積したものが、その後田万川の侵食によって削り込まれ、小さな峡谷となったものである。溶岩の埋積した面は、標高約160mの河岸段丘面として残され、段丘面上に集落(大野・藤木)や耕地が広がっている。				
	段丘面上から比高約20mの谷壁を下ると田万川の谷底にでる。谷底の中を河道は河床の一部をやや開析し、谷底を屈曲しながら流れている。その両側は基盤の露出したベンチ状の河川敷が広がり、表面には浮き彫りになった亀甲状の模様が一帯をおおっている。小規模な滝の部分や溪谷の基部などでは、柱状節理の構造がはっきりと現れている。				
	壘ヶ淵より下流約1km、田万川へ支流鈴野川が合流する付近(下田原・唐音)の河床には、円形他、大きなもので長径1~2mの楕円形をした多数の甕穴(ポットホール)が見られる。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
あまづみ 雨乞山山腹の地滑り地	地質を反映した地形 > 地滑り地	Str-slip-1-1-YAGC	②	中	B
所在地		図 幅 名			
山口県 大津郡油谷町・日置町		2.5万 長門古市(山口)			
解 説	本州北西端の半島・向津具半島には多数の地滑り地形が分布している。特に半島中央部を東西に延びる雨乞山山体(最高峰は標高347.0mの雨乞山)の南北斜面には、多くの第三紀層地滑りが分布する。				
	本域では、第三紀層の礫岩・砂岩・頁岩層の上に、更新世に噴出した緻密な玄武岩(一部は第三紀の安山岩)がキャップブロック状に覆っている。地滑りは玄武岩と第三紀層の境界部を中心に発生しており、ここに規模の大きい滑落崖が残され、滑落崖下に凹地や池が形成されている。滑落崖から下方の緩斜面となる第三紀層地帯には、やや小規模な二次的地滑りが発生しており、それによって生じた滑落崖や地滑り凹地・池(人工の堰き止めによるものを含む)が多数分布している。また、崩落したり、滑動したりした土砂の堆積地形も各所に見られる。				
	このような硬い玄武岩が柔らかい第三紀層の上にキャップブロック状に載る場所で生ずる地滑りは、長崎県北部から佐賀県北西部の北松浦半島に広く分布することから、「北松(浦)型地滑り」とも呼ばれている。				
	緩斜面上では水田が拓かれ千枚田をなしている。地滑り地には集落や道路もあり、昭和47年や昭和55年の集中豪雨によって、大きな地滑りが発生し、被害を生じた。地滑り指定地となり、対策工事が施されている。 見よ→雨乞山山腹の凹地・池：Str-slip-2-1-YAGC、雨乞山山腹の千枚田：Str-slip-3-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
あまづみ 雨乞山山腹の凹地・池	地質を反映した地形 > 地滑りによって生じた凹地・池	Str-slip-2-1-YAGC	③	小	B
所在地		図 幅 名			
山口県 大津郡油谷町・日置町		2.5万 長門古市(山口)			
解 説	向津具半島の中央部に北に向かって半月状に延びる雨乞山山体(最高峰は標高347.0mの雨乞山)の南北の山腹斜面には、多くの第三紀層地滑りが分布する。				
	第三紀の礫岩・砂岩・頁岩層の上に、更新世に噴出した緻密な玄武岩(一部は第三紀の安山岩)がキャップブロック状に覆い、地滑りは玄武岩と第三紀層の境界部を中心に発生しており、ここに規模の大きい滑落崖が残され、その下に凹地や池が形成されている。滑落崖から下方の緩斜面には小規模な二次的地滑りが多数発生しており、それによって生じた地滑り凹地や池(大堤・鎌田堤などの人工の堰き止めによるものを含む)も多数分布している。				
	見よ→雨乞山山腹の千枚田：Str-slip-3-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
あまづみ 雨乞山山腹の千枚田	地質を反映した地形 > 千枚田	Str-slip-3-1-YAGC	③	小	B
所在地		図 幅 名			
山口県 大津郡油谷町・日置町		2.5万 長門古市(山口)			
解 説	向津具半島の中央部に北に向かって半月状に延びる雨乞山山体(最高峰は標高347.0mの雨乞山)の山腹緩斜面は、第三紀層地滑り地帯となっており、ここに水田が拓かれ、千枚田となっている。				
	地滑り緩斜面には、崩落したり、滑動したりした土砂が堆積し、地味の肥えた土壌が分布するため、水田化されることが多い。馬蹄形の幅の狭い水田が棚田となって何段にも連なっている。				
	水田が連なって日本海に没する景勝地でもある。				
	見よ→雨乞山山腹の凹地・池：Str-slip-2-1-YAGC				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
長門峡	河川地形 > 峡谷	Flu-cany-1-1-YAGC	*②	中線	B
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡阿東町・川上村		2.5万 生雲中・長門峡 (山口)			
解説	<p>阿武郡阿東町から同郡川上村にまたがる阿武川中流の峡谷。長門峡の範囲は、広義には阿武川本流の峡谷部と支流の生雲川、蔵目喜川、佐々並川などの峡谷部を含むが、一般には阿武川本流の峡谷部と峡谷中の龍宮淵の上流で合流する生雲川の峡谷部(生雲溪)を指す。</p> <p>峡谷は巨岩・奇岩や急流・深淵が周囲の植生と調和して、渓谷美を見せている。龍宮淵と鈴ヶ茶屋の間では、大小さまざまな罅穴(ポットホール)が見られる。</p> <p>峡谷の形成は、北西方向から谷頭侵食を進めた阿武川が、徳佐盆地北東部の火山活動で堰止められ滞水していた古徳佐湖の水を排水するとともに、流域が拡大し、下刻が進んだことによると考えられている。峡谷の地質は、中生代白亜紀後期の阿武層群を構成する流紋岩および安山岩質凝灰岩・凝灰角礫岩・溶岩などの火山砕屑岩類・火山岩類である。</p> <p>大正12年3月、国の名勝に指定された。長門峡県立自然公園に含まれる。日本画家であり、林学・地質学の専門家であった高島北海によって「長門峡」と命名され、観光開発も進められた。遊歩道・案内板が整備されている。</p> <p>見よ→龍宮淵: Flu-pool-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
石柱溪	河川地形 > 峡谷	Flu-cany-1-2-YAGC	④	線	B
所在地		図幅名			
山口県 豊浦郡豊田町今出		2.5万 於福 (山口)			
解説	<p>木屋川水系白根川の支流どうどう川が、北東-南西方向に延びる高山山塊を横断して形成した峡谷。峡谷は、ほぼ東西に延び、直線で長さ約800m。全体として狭隘な部分は少なく、周囲は森林に覆われている。</p> <p>白亜紀末の石英斑岩からなる四角～六角の柱状節理(径15～20cm)が溪床や溪岸に見られる。また、名前の付けられた16の滝(普賢の滝・北海の滝・連理の滝など)の他、多数の小規模な滝・淵などが連続する。河床には典型的なものは少ないが、罅穴(ポットホール)も見られる。大きなものでは径120cm、深さ270cmに達するという。</p> <p>どうどう川は高山山塊を侵食して、厚狭川水系の支流麦川川の上流を奪っている。石柱溪を上流に抜けると水田の広がる谷底平野に出るが、ここから、南の坂を上ると再び水田の広がる谷底平野に出る。これが上流を奪われた麦川川のウインドギャップ(風隙)である。</p> <p>大正15年10月、国の名称および天然記念物に指定された。豊田県立自然公園の一部である。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
寂地峡	河川地形 > 峡谷	Flu-cany-1-3-YAGC	③	中線	B
所在地		図幅名			
山口県 玖珂郡錦町		2.5万 安芸冠山 (広島)			
解説	<p>山口県内の最高峰・寂地山(標高1337m)の南斜面に形成された峡谷。東側に位置する犬戻峡と西側の龍ヶ岳峡の2つをあわせて寂地峡と呼んでいる。2つの峡谷は、寂地峡の下端にある五竜の滝のすぐ下で合流し、錦川水系の支流宇佐川に流入している。</p> <p>犬戻峡は長さ約3.5km、水神ノ滝をはじめ大小18の滝あるいは早瀬が続く。峡谷の最奥部には犬戻ノ滝がある。龍ヶ岳峡は長さ約1km、五竜の滝(竜の字を持つ五つの滝)をはじめ多くの滝や淵、奇岩が連続する。峡谷の出口にある竜尾の滝は、高さ18mの2段の滝で、途中の段面には罅穴(ポットホール)が見られる。地質はともに黒雲母花崗岩からなる。峡谷の傾斜はかなり急であり、峡谷底はあまり深くえぐられていない。峡谷と言うより渓谷(溪流)の名がふさわしい。</p> <p>昭和41年6月、山口県の名勝に指定された。西中国山地国定公園に含まれる。階段の多い遊歩道が整備されている。峡谷入り口付近にはキャンプ場もある。五竜の滝は山口県で唯一、「日本の滝百選」に選ばれている。また、溪流は「日本の名水百選」にも選ばれている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
錦鶏ノ滝	河川地形 > 滝及び滝壺	Flu-fall-1-1-YAGC	⑤	微	B
所在地		図幅名			
山口県 山口市上宇野台		2.5万 山口 (山口)			
解説	<p>東鳳翔山(標高734.2m)と鼓ヶ岳(標高603m)の間において、榎野川支流ノ坂川の上流の錦鶏川にかかる錦鶏ノ滝は東西2つの溪流にかかる滝の名称で、東側を「雌滝」西側を「雄滝」と呼んでいる。雌滝は落差7m、水量は豊富で滝壺がある。雄滝は落差30m、幅6m。黒色片岩からなる基岩上を溪流ないし早瀬となって流下している部分が多い。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
岩尾滝	河川地形 > 滝及び滝壺	Flu-fall-1-2-YAGC	⑤	微	B
所在地		図幅名			
山口県 大島郡大島町		2.5万 大島(松山)			
解説	<p>大島町西浜の海岸から直線で北に約1.6kmのところにある滝。高さは約15m、滝壺がある。城山(標高353.6m)山体北部の小盆地(盆地の標高130m)から流出する滝川のニックポイント(傾斜変換点、標高60m)に当たる。付近の岩石は縞状片麻岩からなる。</p> <p>岩尾山光明寺の境内にあり、「観音の滝」とも呼ばれる。岩尾滝は「雄滝」「雌滝」「白糸の滝」「住吉の滝」の総称でもあるが、雄滝(岩尾滝)以外は小規模である。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
宇佐ノ大滝	河川地形 > 滝及び滝壺	Flu-fall-1-3-YAGC	⑤	微	A
所在地		図幅名			
山口県 玖珂郡錦町宇佐		2.5万 宇佐郷(広島)			
解説	<p>錦川の支流宇佐川が高津川の上流域を争奪した付近は、約4kmにわたって峡谷状地形(高根峡谷と呼ばれる)となっている。その峡谷の最奥部に、黒雲母花崗岩の谷壁を2条に分かれて落下する宇佐ノ大滝(落差28m)がある。ほぼ直線的に落下する滝で、滝壺もある。水量も豊富である。</p> <p>国道434号が滝の頭部付近を通り、道路からは容易に見下ろすことができるが、遊歩道などはなく、滝壺からの観察は容易でない。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
龍宮淵	河川地形 > ナメ・淵	Flu-pool-1-1-YAGC	⑤	小	B
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡阿東町・川上村		2.5万 長門峡(山口)			
解説	<p>阿武川の形成した長門峡の中にある淵。支流生雲川(生雲峡)の合流点から約800m下流にある。支流野戸呂川が西から合流した下流で、緩やかに湾曲しながら北流する河道の西側の攻撃斜面に淵が形成された。東側は礫の堆積した河原となっている。</p> <p>淵の底が龍宮に続いていて、龍宮を訪ねたという伝説を持つ。龍宮淵のほか長門峡には、「榎ヶ淵」「大谷淵」「佳景淵」などの淵がある。</p> <p>見よ→長門峡: Flu-cany-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
長穂の環流丘陵	河川地形 > 環流丘陵	Flu-mean-2-1-YAGC	③	中	B
所在地		図幅名			
山口県 徳山市長穂		2.5万 須々万本郷(山口)			
解説	<p>周防高原を開析して流れる錦川の中流部にある環流丘陵。徳山市長穂付近の錦川本流の南側に北西-南東方向に細長く延びる丘陵(長径約500m、短径約130m、最高点の標高344m)があり、それを取り巻いて幅200~500mの凹地が続く。凹地はかつての錦川の旧河道と認められる。</p> <p>凹地の西部は段丘化し、河岸段丘となっている。比高10m程度で、最高地点の標高約310m。南~東部は、環流丘陵の周りに低い段丘を伴う沖積面となっている。現在の錦川本流は、これをさらに開析している。低い段丘面は、現在ここを流れる錦川支流助地川によって形成されたと考えられる。</p> <p>環流丘陵の緩斜面および周囲の河岸段丘面上には徳山市長穂の中心集落や畑が立地する。他の旧河道部は、低い段丘面を含めて大部分が水田となっている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
広瀬の環流丘陵	河川地形 > 環流丘陵	Flu-mean-2-2-YAGC	④	中	C
所在地		図幅名			
山口県 錦町広瀬尾川		2.5万 周防広瀬(山口)			
解説	<p>玖珂郡錦町の中心地広瀬より西へ約1.4km、錦川中流の峡谷中にある環流丘陵。錦川本流の北にある長径350m、短径200mの丘陵(標高160m)を取り巻いて、径約400mの半円形の凹地が続いており、旧流路と見なすことができる。凹地の最高地点は標高130m。凹地底や緩斜面には集落や耕地が立地する。</p> <p>錦川本流の中流峡谷部には、広瀬より上流部の徳山市西松室に同様の地形が認められる。西松室の環流丘陵は、菅野ダムの下流500mのところであり、標高260mの丘陵の周囲を径約200mの凹地がほぼ環状に取り巻いている。凹地には水田・集落・発電所が立地する。</p> <p>現在、広瀬の環流丘陵のすぐ上流で山口県営平瀬ダムの建設が進んでおり、環流丘陵上を国道434号が縦断する工事が進展し、旧河道の凹地上には橋が建設されている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
宇佐郷と向峠の河川争奪	河川地形 > 河川争奪地形・風隙	Flu-pira-1-1-YAGC	②	中	B
所在地		図幅名			
山口県 玖珂郡錦町宇佐郷		2.5万 宇佐郷 (広島)			
解説	<p>広島・島根県境に近い錦町宇佐郷には西中国山地を代表する河川争奪地形がある。瀬戸内海に流出する錦川の支流宇佐川が、日本海に流出する高津川の上流域を奪っている。</p> <p>かつて、高津川は広島県境の冠山付近に水源を発した後、南西に流下しながら、宇佐一向峠から県境を越えて島根県吉賀町新田、田野原などに谷底平野を形成しながら、日本海へと注いでいた。一方、北から流下してきた、かつての支流深谷川も県境の向峠(山口県)一初見(島根県)付近で高津川と合流し、幅広い谷底平野を形成していた。その後、下刻作用を増した錦川支流宇佐川の谷頭侵食の進展によって、向峠東方で高津川の上流部が奪われ、錦川(支流宇佐川)の流域に組み入れられてしまった。続いて、そこから約2km下流の宇佐郷上から北西に延びる一支流の谷頭侵食によって、深谷川も錦川(宇佐川)へ組み込まれることとなった。</p> <p>河川争奪の生じた時代は十分には解明されていないが、更新世後期と推定されている。争奪面積約100km<sup>2</sup>で、中国地方有数の規模である。かつての高津川の河床は、下刻の進んだ現在の深谷川や宇佐川にとっては段丘地形となっている。宇佐川河床と段丘面の比高は100~150mにも達する。所々に厚さ数mを超える円礫層が観察できる。また、向峠東方より上流の浦石や中国自動車道の宇佐川橋付近には、標高400~440mの平坦な段丘地形があり、かつての高津川の流路の痕跡をとどめている。上流部を争奪された現在の高津川は、島根県六日市町星坂の北西の「一本杉の池」湧水が源流となっている。</p> <p>深谷川の峡谷は西中国山地国定公園に含まれる。段丘面上には集落が立地し、平坦さを利用して水田となっているところも多い。中国自動車道が、段丘面広いに建設されており、部分的に車窓からの観察もできる。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
上八道の河川争奪	河川地形 > 河川争奪地形・風隙	Flu-pira-1-2-YAGC	③	線	B
所在地		図幅名			
山口県 豊浦郡豊田町上八道		2.5万 西市(山口)			
解説	<p>豊田町上八道付近に見られる複雑な様相を呈する河川争奪地形。大局的には、瀬戸内海に流れる木屋川が日本海の油谷湾に流れる粟野川の上流域を争奪している。争奪面積約110km<sup>2</sup>。</p> <p>北西に流下する粟野川の両側には、標高200m以下の丘陵が分布し、その起伏量は下流部で100m、八道付近では50m前後とより小さく、低平な丘陵となる。粟野川はこの丘陵の中を緩やかに流下している。最上流部の上八道付近では、粟野川に対してほぼ直交する方向に流下してきた木屋川支流の稲見川(北東→南西)や山田川(南西→北東)によって、粟野川は突然その上流部を失っている。上八道集落の北東、稲見川側では丘陵を開析する数本の小谷が風隙となっている。一方、上八道集落の南の山田川側では、幅200数十mにわたって水田面が山田川の支流の谷頭侵食によって切り取られ、風隙地形を形成している。上八道付近には、洪積世の砂礫層がのっており、山田川側からは比高約30mの段丘地形となっている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大土路の河川争奪	河川地形 > 河川争奪地形・風隙・谷中分水界	Flu-pira-1-3-YAGC	③	線	B
所在地		図幅名			
山口県 佐波郡徳地町大土路		2.5万 大原湖(山口)			
解説	<p>徳地町大土路付近で、瀬戸内海に流出する佐波川の支流下の谷川が、日本海に流出する阿武川の支流朴川の上流域を争奪している。</p> <p>風隙にあたる大土路付近は、標高310~330mで、山脚の間を緩やかに湾曲する、幅広い谷底を持つ谷地形となっている。谷の中央部を北西に流下する朴川は、谷幅とは不釣り合いな小さな流れとなっている(無能河川)。谷の中央を走る国道489号は、谷底の最高点(標高328m)を境に朴川側は緩やかに下り、下の谷川側は急坂となって下っている。この地点が谷中分水界である。</p> <p>佐波川本流の河谷には、顕著な段丘地形が発達している。佐波川と下の谷川の合流点より上流側には、段丘崖の比高90~100m、段丘面の標高320~330mの横山段丘がある。さらに、佐波川本流の上流部、徳地町榎木付近(河内谷・平岩谷)にも、山脚にへばりつくように20~30mの比高を持つ段丘が見られる。段丘面の標高は350m程度である。これらの段丘面は旧朴川の形成した河床面と考えられることから、支流下の谷川のみならず、佐波川本流も朴川の上流域を争奪したと考えられている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
伊陸の谷中分水界	河川地形 > 谷中分水界・河川争奪	Flu-divv-1-1-YAGC	④	線	B
所在地		図幅名			
山口県 柳井市伊陸		2.5万 上久原(広島)			
解説	<p>柳井市街地の北約7kmの内陸にある小盆地伊陸にある谷中分水界。伊陸周辺は、標高300~500mの花崗岩質の山地が分布し、その山麓部には200m以下の丘陵~丘陵性山脚が広がっている。伊陸盆地はそれらの丘陵や丘陵性山脚に囲まれた、標高90m程の小盆地である。</p> <p>盆地底のほぼ中央部、東宮ヶ原集落の付近に谷中分水界があり、ここを境に西~北西方向へは島田川支流四割川が緩やかに流下し、一方、東方向へはやや急な勾配で由宇川が流下している。両河川はともに瀬戸内海に注ぐ小河川である。この谷中分水界は、東側から侵食を進めてきた由宇川が島田川の支流四割川の upstream を争奪することによって生じたと考えられる。盆地中央を北東-南西方向に比高約2mの不明瞭な崖線が走る。崖線の北西側は四割川の風隙に相当し、南東側の由宇川河床からは低い段丘地形となっている。東宮ヶ原集落はこの崖を横断する道路に沿って立地している。争奪された旧島田川の上流域は、砂礫層からなる段丘や定高性のある丘陵の分布から、柳井市街地の北部にそびえる琴石山(標高545.2m)の山麓付近まで広がっていたと考えられる。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
佐波川中流の谷底平野	河川地形 > 谷底平野	Flu-plan-1-1-YAGC	⑤	中	B
所在地		図幅名			
山口県 防府市, 佐波郡徳地町		5万 長門峡・防府(山口)			
解説	<p>徳地町市付近から下流の佐波川は、北東-南西方向の構造性の直線的な谷底平野の中を流下している。谷底平野は比較的平坦で、その幅も主要支流の合流点付近や下流の防府三角州の近くを除けば、400~700mほどで安定している。河道は谷底平野中を左右に蛇行している。本流からの土砂の流出による扇状地性の谷底平野で、明瞭な自然堤防は認められないが、市・堀・沖ノ原・中山・上河原などの集落は、低い自然堤防ないし網状流の砂礫州の上に立地していると考えられる。</p> <p>谷底平野は集落の他は、ほとんどが水田化されている。段丘や支谷からの押し出し地形などが少なく、谷底面が平坦であることから、かつては谷底のほぼ全域で洪水の被害を受けてきた。戦国期の内氏も洪水対策として、右岸に霞堤(霞土手)を築堤したという。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
徳佐盆地北部	河川地形 > 埋積谷	Flu-bury-1-1-YAGC	*②	中	B
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡阿東町		5万 徳佐中・津和野(山口)			
解説	<p>徳佐盆地は、津和野-岐波構造線に沿って北東-南西方向に細長く伸びた盆地で、盆地中の河川はかつて北東(津和野)方向に流出していた。新生代第三紀末~第四紀初になると、盆地北東端の野坂山・三原山・船平山などの火山が噴出し、川は堰止められ、湖(古徳佐湖)が形成された。その後、湖水は南西方向から延びてきた阿武川の谷頭侵食により、盆地南西部の長門峡から日本海に排水されるようになった。</p> <p>徳佐盆地の中心市街地のある栄町(徳佐中)付近には、古徳佐湖時代の湖成段丘(高位段丘、標高300~320m)があり、盆地を流下してきた阿武川支流の沖田川の狭窄部をなしている。沖田川はこの狭窄部を抜けたところで、北西から流下してきた阿武川本流に合流している。</p> <p>狭窄部より上流の盆地底の標高は300~310m程度と、極めて平坦で、旧湖盆性の埋積低地の様相を示している。湖底堆積物(徳佐層)の厚さは、40mを超えるところもある。周辺山地からは盆地底に緩やかに移行する小扇状地~崖錐性の地形(市場・宇津根付近など)が見られる。盆地底は広々とした水田地帯となっている。</p> <p>見よ→野坂山: Vol-mt-1-1-YAGC, 徳佐盆地の河岸段丘: Flu-terr-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
宇生賀盆地	河川地形 > 埋積谷	Flu-bury-1-2-YAGC	③	中S	B
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡阿武町		2.5万 長門広瀬(山口)			
解説	<p>宇生賀盆地は日本海に注ぐ大井川の支流宇生賀川に形成された、東西・南北とも約130m、西洋ナンシ状の小盆地である。盆地底は標高400m、周囲の山地斜面の傾斜と比べ対照的に極めて平坦である。</p> <p>大井川は、萩市周辺から東~北方にかけて分布する阿武単成火山群地域を流下している。このため、この火山群の活動(溶岩平頂丘や溶岩台地・火山砕屑丘・溶岩円頂丘の形成など)に伴って、流域では河道の堰き止めによる湖盆の形成や流路の変更が各所(福井・紫福・福田など)で起こっている。宇生賀盆地は周囲全城をこれらの火山活動によって形成された火山体によって囲まれている。</p> <p>堰き止めにより盆地底は、堰塞湖盆として埋積が進んだ後、しだいに湿地性盆地となり、現在では湿地開拓が進み水田化している。盆地底にはスギ・ヒノキの埋木が多く、掘り出されたものは「かくい」と呼ばれ、置物などの加工材として利用される。</p>				



名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
徳佐盆地の河岸段丘	河川地形 > 河岸段丘及び段丘崖	Flu-terr-1-1-YAGC	③	中	B
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡阿東町		5万 徳佐中・津和野(山口)			
解説	<p>県北東部に位置する徳佐盆地は、津和野一岐波構造線に沿って北東-南西方向に細長く伸びた盆地で、盆地底には3段の河岸段丘及び段丘崖の地形が発達している。</p> <p>盆地中の河川はかつて北東の津和野方向に流出していた。新生代第三紀末～第四紀初になると、盆地北東端の野坂山・三原山・船平山などの火山が噴出し、川は堰止められ、湖(古徳佐湖)が形成された。その後、湖水は南西方向から延びてきた阿武川の谷頭侵食により、盆地南西部の長門峡から日本海に排水されるようになった。</p> <p>現在、盆地底には3段の段丘地形が残されている。高位段丘は、標高300～320m、盆地全域でほぼ様な高度を示すことから、古徳佐湖の時代に堆積した湖成段丘やそれに続く三角州・三角州状扇状地が段化したものと考えられている。中位段丘(河床からの比高10～20m)および低位段丘(同3～8m)は、古徳佐湖の水が排水された後の河岸段丘である。段丘の分布域は、阿武川の開析が進んだ、徳佐中より下流である。</p> <p>盆地の低地では水田が営まれ、周辺の段丘面や山麓の緩斜面では、畑・果樹園が営まれている。盆地中を国道9号・JR山口線が貫通する。</p> <p>見よ一徳佐盆地北部:Flu-bury-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
洪前の河岸段丘	河川地形 > 河岸段丘及び段丘崖	Flu-terr-1-2-YAGC	④	中S	C
所在地		図幅名			
山口県 玖珂郡美和町洪前		2.5万 洪前(広島)			
解説	<p>美和町洪前付近の河谷には数段の河岸段丘が分布する。洪前の中心集落市を境に西流する洪前川側(錦川水系)に3段の河岸段丘が分布し、東流する佐坂川側(小瀬川水系)にも2段の段丘が分布する。洪前川側で広く分布する上位の段丘面の標高は市付近で180m、下流の生見川の合流点付近で140～150mとなっている。</p> <p>これらの段丘地形の形成過程は、段丘面の分布状況や段丘構成礫の性質などから、次のように考えられている。現在、西中国山地をほぼ南流し、山口・広島県境に沿って流下し、広島湾に流入する小瀬川は、かつては支流佐坂川の河谷を通過して西流し、錦川水系の洪前川の河谷に入り、さらに小瀬川の河谷を経て、錦川に合流する河川であった。その後、小瀬川の谷頭侵食が洪前の東方、現弥栄ダム付近まで進展すると、その上流域は小瀬川流域に組み込まれることとなった。佐坂付近の流域は以前と同様に西流していたが、やがて小瀬川本流からの谷頭侵食が洪前付近まで到達すると、水系は現在のような小瀬川に流入する佐坂川の姿になった。</p> <p>この小瀬川による旧錦川東部流域の争奪は、争奪面積が300km<sup>2</sup>に及ぶ大規模な河川争奪であった。洪前の市付近(標高170m)は河川争奪によって形成された風隙であり、谷中分水界でもある。洪前川の低位の2つの段丘面および佐坂川の2つの段丘面は、市付近が谷中分水界になってから、両河川の河床面が段化したものである。</p> <p>段丘面上は耕地としての開発が進められたが、近年は工業用地などの開発も進んでいる。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
東川の扇状地	河川地形 > 扇状地	Flu-fan-1-1-YAGC	③	中	C
所在地		図幅名			
山口県 徳山市		2.5万 徳山(山口)			
解説	<p>徳山市の中心市街地が立地する扇状地。周防高原の南斜面を流下する東川によって形成された。扇面は南～西に向かって四分円状に広がっている。扇頂部は標高約60m。扇頂部の勾配は約40‰、扇央で約20‰、扇端で約12‰となっている。扇頂から扇端まで長さ約2.6km。</p> <p>扇頂から扇央にかけては、東川や山田川によって開析を受け段丘化している(開析扇状地)。扇端は沖積面に漸移し、沖積層下に没している。垂角礫を中心とする段丘堆積物は、扇頂部で薄く(4～8m)、扇端では20mを超えている。現在扇状地東端を流下する東川は、市街地北部の周防高原南斜面に水源があつて、扇頂までの延長は3.8kmほどの小河川にすぎない。一方、扇状地の縁辺に分布する上位の段丘も風化した扇状地堆積物から構成されており、合成扇状地と見なされる。このため、かつて上流部で河川争奪による流域変更があつたと推定されている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
水無川の扇状地	河川地形 > 扇状地	Flu-fan-1-2-YAGC	*④	中	C
所在地		図幅名			
山口県 玖珂郡玖珂町玖珂		2.5万 玖珂(広島)			
解説	<p>蓮華山(標高576.4m)山塊から流下した島田川支流の水無川が、玖珂盆地に流出したところらに形成した小扇状地。等高線は南に向かってほぼ半円形を描いている。扇頂-扇端間は約1.5km。扇頂の標高70m、扇端では50m。扇央部までは浅く開析を受けている。水無川は名前の通り少雨期には水の流れが見られなくなる。コンクリートによる流路工が施されている。</p> <p>扇頂では水田や住宅地が混在している。扇央は玖珂町の中心市街地が立地しており、東西に国道2号やJR岩徳線が貫いている。畑地として利用されているところもある。先端はほとんどが水田となっている。この扇状地と類似した地形は、より小規模であるが、島田川を西に下った隣町の周東町下久原にもある。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
歌野川 <small>うたの</small> の小扇状地	河川地形 > 扇状地	Flu-fan-1-3-YAGC	④	中	B
所在地		図 幅 名			
山口県 豊浦郡菊川町下岡枝		2.5万 田部 (山口)			
解 説	<p>華山(713.3m)山塊から南流する木屋川支流の歌野川が、北西-南東方向に延びる菊川断層と交差した後、木屋川と支流田部川の合流地点の、やや広い谷底平野に流出したところに形成した小扇状地。扇状地は南~東の方向に広がっており、扇頂の標高50m、扇端では15m、扇頂-扇端間の長さは、場所により差が大きい、長いところで約2.1km。扇状地の北端を流下する歌野川は、扇状地面を数m開析している。扇状地の西側でも開析を受け、末端部は東流する田部川の開析を受けている。一方、南東の扇端部は堆積による張り出した地形が見られる(下岡枝の集落付近)。合成扇状地の一種と見なすことができる。</p> <p>扇状地上は一部の集落を除くと、ほとんどが水田となっている。扇端には下岡枝の中心集落が立地している。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
西深川 <small>にしふか</small> 付近の沖積錐	河川地形 > 沖積錐	Flu-cone-1-1-YAGC	④	中	B
所在地		図 幅 名			
山口県 長門市西深川		2.5万 仙崎 (山口)			
解 説	<p>長門市の中心市街地・東深川の西方、深川川の左岸に広がる連続した小扇状地ないし山麓緩斜面状を呈する沖積錐。この斜面は広いところで幅1km強あり、標高は高いところで約50m。山地から流出する五十鈴川・板持川などの小河川によって開析を受けている。末端部も北流する深川川の侵食を受け、比高10mほどの崖となっている。斜面には洪積世のくさり礫をのせている。</p> <p>沖積錐は扇状地よりは扇面の勾配が急で、崖錐よりは緩やかな地形を指すことから、この斜面は洪積世に形成された小扇状地ないし崖錐性の地形が、後に開析を受け、沖積錐の形状を呈するに至った、と見なし、沖積錐に分類した。</p> <p>沖積錐面は大正時代から耕地整理などによる開発が進み、ため池灌漑も行われ、水田や果樹園・集落・畜舎などとして利用されている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
別府 <small>べつふ</small> 弁天池	河川地形 > 湧泉・湧泉群	Flu-sprg-1-1-YAGC	*③	微	B
所在地		図 幅 名			
山口県 美祿郡秋芳町別府		2.5万 秋吉台 (山口)			
解 説	<p>カルスト台地の江原台(西秋吉台)とチャートや砂岩、頁岩などから成る花尾山(標高669.1m)山塊間の小谷底平野に湧出する湧泉。湧出地点は、花尾山山塊の南麓側に当たり、チャート中の地下水が湧出していると考えられている。水温は年間を通じて14℃、湧出量は毎秒168リットル程度、カルシウム含有量は20ppmであり高くない。</p> <p>湧水池は周囲約40m、水深約3m、石垣で囲われており、弁財天を祀る社(巖島神社)の境内の一部となっている。湧水は、飲料、マスの養殖、水田などに利用されている。昭和60年7月、環境庁の「日本の名水・百選」に認定された。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
水神池 <small>みづかみ</small>	河川地形 > 湧泉・湧泉群	Flu-sprg-1-2-YAGC	④	微	B
所在地		図 幅 名			
山口県 美祿郡秋芳町首和		2.5万 秋吉台 (山口)			
解 説	<p>通称青池。秋芳洞入り口から南西方向へ約900m、カルスト台地・秋吉台の南端の崖下に湧出する湧泉池。急崖を上った台地面上には木ノ窟をはじめとするたくさんのドリーネ群がある。平地側(広谷ポリエ)は崖下に並ぶ集落の他は水田となっている。細長い弧状の池を形成しており、小河川への流出部にはコンクリート橋が架かっている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大番 <small>おほばん</small> ノ池	河川地形 > 湧泉・湧泉群	Flu-sprg-1-3-YAGC	⑤	微	B
所在地		図 幅 名			
山口県 美祿郡秋芳町岩永・堀の内		2.5万 秋吉台 (山口)			
解 説	<p>カルスト台地の江原台(西秋吉台)の東斜面基部にある小湧泉。基岩の中から湧出しており、人為も加えられたと見られる径4mほどの基岩の凹地に水をためている。</p> <p>灌漑用水源として重要で、湧泉池の東には、厚東川支流本郷川の谷底平野が広がり、水田地帯となっている。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
車町付近の旧河道	河川地形 > 旧河道	Flu-old-1-1-YAGC	⑤	中線	C
所在地		図幅名			
山口県 岩国市車町		2.5万 岩国 (広島)			
解説	<p>周防山地を流下した錦川は、岩国城のある山塊を迂回したところから山地を抜け、川は分流し、岩国三角州を形成している。この岩国三角州のかつての分流の一つが、岩国市街地の車町付近を通る旧河道として残されている。</p> <p>現在の錦川は三角州頂部で2つに分流している。東に流下し安芸灘に抜けるのが今津川（錦川本流）で、南東に流下するのが門前川である。この分流地点から東へ約1km下った今津川に架かる大正橋の南端から、緩やかに湾曲しながら南東に流れるかつての分流（旧河道）があった。明治期の地形図では、付近の土地利用から明瞭に旧河道の道筋をたどることが出来る。現在は、市街地化しており、わずかに道路やそれに添う水路（暗渠となっている）としてその跡をたどることが出来る。</p> <p>見よ→岩国平野：Flu-delt-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
新橋町付近の旧河道	河川地形 > 旧河道	Flu-old-1-2-YAGC	⑤	中線	C
所在地		図幅名			
山口県 防府市新橋町		2.5万 防府 (山口)			
解説	<p>防府市の市街地が立地する防府平野は佐波川の形成した扇状地状三角州である。北東-南西方向の構造的な河谷を南西に流下した佐波川は天神山（標高166.9m）の西で、河谷を出て緩やかな傾斜の扇状地を形成するやいなや、すぐに瀬戸内海に達し、その前面に三角州を形成した。三角州の前面には数列の砂州が発達し、その沖には干潟が広がっていたが、干拓や埋め立てによって多くは陸地化している。現在の平野面はこれらの人工面が広い面積を占めている。</p> <p>現在の佐波川河道は、堤防によって三角州内部に固定されているが、平野面には緩扇状地の網状流路の痕跡をとどめる多くの旧河道へ旧流路が認められる。多くは灌漑や生活用水のための人為の加わった水路を伴って残っている。</p> <p>防府市街地から国道262号に抜ける新橋の南東端（新橋町）から、南西方向に古祖原・開出間を通して中河内に至る旧河道は、このようなものの代表である。旧河道は宅地化が進み、盛土されたりしているが、細い水路を伴った断続する水田の様子によってその存在が分かる。この旧河道のすぐ東の開出・高倉一丁目間にも似たような旧河道がある。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
岩国平野	河川地形 > 三角州	Flu-delt-1-1-YAGC	④	中	C
所在地		図幅名			
山口県 岩国市		2.5万 岩国・大竹 (山口)			
解説	<p>周防山地を東流した錦川が安芸灘（広島湾）に流出するところに形成した円弧状三角州。周防山地を流下する錦川は、海岸の近くまで穿入曲流しながら流下し、岩国城のある山塊を迂回したところから平地に出て三角州を形成している。錦川は三角州の頂部で2つに分流し安芸灘に流入している。三角州の北を東流するのが今津川（錦川本流）で、南東に流下するのが門前川である。三角州の面積約22km<sup>2</sup>。</p> <p>現在の三角州の内、自然に陸化した三角州は、ほぼJR山陽本線以西の地域で、それ以东の地域は江戸時代以降の干拓地（旧地形図では開作地名を残す）である。自然に陸化していた三角州には、旧河道などが残されており（車町付近の旧河道）、一帯は市街地化が進んでいる。干拓地の前面では埋め立てが進み、今津川の北岸は化学工業地帯となり、南岸の旧海軍航空隊跡地は在日米軍の岩国基地となっている。門前川右岸の低湿地は、水田や蓮田となり名産の岩国レンコンが栽培されている。</p> <p>見よ→車町付近の旧河道：Flu-old-1-1-YAGC</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
萩平野	河川地形 > 三角州	Flu-delt-1-2-YAGC	④	中	B
所在地		図幅名			
山口県 萩市		5万 萩 (山口)			
解説	<p>長門山地を北西方向に流下してきた阿武川が、日本海に流出するところに形成した三角州。阿武川は三角州頂部で三角州の東側を流れる松本川（本流）と西側を流れる橋本川に分流する。この付近には、比高の低い自然堤防や旧流路が残されている（川島・金谷・濁洲など）。三角州末端の沿岸部（菊ヶ浜）には東西に延びる幅の広い浜堤状砂堆（幅0.7～0.9km、東西の長さ約2.4km、被覆砂丘があり、最高地点は約10mに達する。）が発達している。この砂堆は北西部のかつて萩城のあった指月山にまで達している。砂堆は指月山からさらに西へ延び、橋本川河口には新しい砂州が形成されている。砂堆より南の三角州中央部は、ラグーン性の低湿な土地が広がっていた（平安古・江向など）が、現在は市街地化している。</p> <p>江戸時代に、毛利藩の城下町としての整備や舟運のための運河の掘削、洪水対策としての築堤や流路の改修などが行われたが、近代以降は規模の大きい干拓や埋め立てなどの改変が少なく、山口県内の瀬戸内海側の三角州に比べ、自然の形態をよく残している。江戸時代中期の絵図「萩大絵図」などが残されており、当時との比較ができる。現在は萩の中心市街地が立地している。</p> <p>菊ヶ浜には、幕末に大砲を並べる土塁が築かれた。近年では侵食防止のため、東部には護岸堤が、その西には沖合100～150mに離岸堤・潜堤（人工リーフ）が設けられている。西端部は海水浴場として憩いの場にもなっている。沿岸部は北長門海岸国定公園の一部である。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
防予諸島	海岸地形 > 多島海	Coa-is1-1-1-YAGC	③	大	A
所在地		図幅名			
山口県 大島郡東和町～熊毛郡上関町		20万 松山 (松山)			
解説	<p>防予諸島一帯は、瀬戸内海西部の山口県南東部と愛媛県北西部の間にある島の多い海域である（多島海）。防予諸島は山口県の周防大島諸島と愛媛県の忽那諸島を合わせた範囲とされているが、ここでは、地形地質的に類似する熊毛半島周辺の島々も含めた範囲とする。山口県側の主な島は、周防大島（屋代島）、平郡島、熊毛群島の佐合島・馬島・長島・祝島・牛島・八島などである。最も面積が広い周防大島（屋代島）をはじめ、その他の島々も山地が海に迫り、海岸線は屈曲が多く、平地の乏しい沈水性の島となっている。ほとんどの島が領家変成岩類からなり、上部に瀬戸内層群の安山岩をのせることがある。</p> <p>一帯は瀬戸内海国立公園の一部である。周防大島（屋代島）と長島は、大島瀬戸と上関海峡によって本土と隔てられているが、現在は架橋され陸続きとなっている</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
須佐湾	海岸地形 > リアス式海岸（沈水海岸）	Coa-rias-1-1-YAGC	③	中	B
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡須佐町		2.5万 須佐 (山口)			
解説	<p>山口県北東部の須佐湾は阿武山地の一部が沈水した溺れ谷である。湾内には小半島や入り江（大浦・福浦・阿武浦・青浦など）が連続し、湾口周辺には小島や岩礁（雄島（別名天神島）・黒島・金欄瀬・俎瀬・観音岩付近）などが浮かぶ、変化に富んだ地形である。東西約2km、南北1.5kmと小規模ではあるが典型的なリアス式海岸（沈水海岸）といえよう。地質は白亜紀の阿武層群に属する安山岩質石や凝灰角礫岩などからなる。</p> <p>須佐湾に注ぐ須佐川の三角州上に、須佐町の中心集落が立地している。湾内の入り江では最奥部が干拓されているところもあるが、自然の景観をよく残している。昭和3年3月、国の名勝および天然記念物に指定された。北長門海岸国定公園の一部でもある。</p> <p>見よ→須佐湾周辺：Coa-coas-1-1-YAGC、壘岩と屏風岩：Coa-clif-1-3-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
青海島北岸	海岸地形 > 岩石海岸	Coa-coas-1-1-YAGC	③	中S	A
所在地		図幅名			
山口県 長門市		2.5万 青海島北部・通 (山口)			
解説	<p>青海島は周囲約28km、主として白亜紀の石英安山岩～流紋岩質凝灰岩類よりなる島で、北岸を日本海に面して、東西に延びる島である。その北岸は長さ約16kmにわたって、海食崖が発達する岩石海岸となっている。</p> <p>海食崖は島の東部で高く100mを超えている。そのほかは数十m～50m程度である。海食崖に沿って、離れ岩が点在する波食棚が広がっている。波食棚の幅はおおむね100m以内であるが、東部の「十六羅漢」付近では200mを超えており、その上に林立する多数の離れ岩が景観を引き立たせている。西部には、「黄金洞」や「観音洞」と名付けられた海食洞・海食洞門が数多く分布する。</p> <p>大正15年10月、国の名勝・天然記念物に指定。北長門海岸国定公園の一部である。島を一周する観光船があり、岩石海岸の地形を観察することが出来る。</p> <p>見よ→大門・小門：Str-brid-1-1-YAGC、鼻線岩：Str-brid-1-2-YAGC、屏風岩：Coa-clif-1-1-YAGC、黄金洞：Coa-cave-1-1-YAGC、観音洞：Coa-cave-1-2-YAGC、十六羅漢：Coa-reef-1-2-YAGC</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
須佐湾周辺	海岸地形 > 岩石海岸	Coa-coas-1-1-YAGC	③	中線	A
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡須佐町		2.5万 須佐(山口)			
解説	山口県北東部の須佐湾周辺は、東阿武山地の西部が沈水した沈水海岸である。阿武湾の湾入部を除きおおむね北東-南西方向に延びる海岸線には、海食崖や海食洞・ノッチ・颯穴・海食棚・岩礁などが分布する岩石海岸となっている。須佐湾口から北へ約2kmのところにある「畳岩」や湾口から西へ約1kmのところにある「屏風岩」は、本城を代表的する海食崖である。				
	北東部の白ヶ瀬から南西部の金井崎までが、昭和3年3月、国の名勝および天然記念物に指定されている。北長門海岸国定公園の一部でもある。この岩石海岸北部の東には、山頂部の「磁石石」(斑巖が強い磁気を帯びている)で有名な高山(標高532.8m)がある。 見よ→須佐湾:Coa-rias-1-1-YAGC, 畳岩と屏風岩:Coa-clif-1-3-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
千畳敷	海岸地形 > 波食棚(波食台)	Coa-benc-1-1-YAGC	④	線	A
所在地		図幅名			
山口県 長門市西深川		2.5万 仙崎(山口)			
解説	青海島と津津具半島の間に広がる深川湾の南西部にある波食棚(波食台)。波食棚は背後に広がる海岸段丘(段丘面の標高約20m)の海食崖下に発達する。幅は10~15m。第三紀の日置層群からなり、礫岩・砂岩・頁岩が緩やかに傾斜している。節理に沿って強く侵食を受け、畳様のパターンを作り出している。海食崖下部には地層の傾斜に沿ったノッチ(海食窪)やノジュール、颯穴(ポットホール)などが見られる。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
蓋井島	海岸地形 > 波食棚(波食台)	Coa-benc-1-1-YAGC	④	中線	A
所在地		図幅名			
山口県 下関市蓋井島		2.5万 蓋井島(小串)			
解説	蓋井島は本州最西端の毘沙ノ鼻から約6km西に離れた饗灘にある小島で、周囲を海食崖や波食棚(海食台)によって取り巻かれている。				
	海食崖の高さは数10m、高いところで70~80mに達する。その基部に発達する波食棚は平均して40~50mの幅を持ち、広いところでは80mに達する。蓋井島の周囲の3分の2を占める。酒ノ瀬、源蔵ヶ鼻付近、賢女ノ鼻付近などの波食棚上には岩島(離れ島)が多い。地質は島の北西部が白亜紀の関門層群(砂岩・礫岩・頁岩)、南東部が花崗岩・花崗閃緑岩からなる。 島の中央部の南岸に集落と港があり、対岸の吉見漁港との間に定期船がある。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
宇部台地	海岸地形 > 海成段丘	Coa-mter-1-1-YAGC	③	中	B~C
所在地		図幅名			
山口県 宇部市の周防灘沿岸		2.5万 宇部東部(中津)・阿知須(山口)			
解説	宇部市街地の北から、山口市街地を流下する榎野川河口の右岸側にかけて分布する海成段丘。ほぼ周防灘に沿って分布し、内陸1~4kmにまで達する。下位から粘土層・砂礫層・赤土層(火山灰層)からなる低・中・高3段の段丘面が発達する。宇部市東岐波の丸尾崎から北西方向に広がる台地が模式地となっている。				
	低位段丘面は標高10~20mに広がり丸尾原面と呼ばれている。段丘面は浅い開析谷によって開析を受けている。その谷頭部が堰き止められ、灌漑用の小溜池となっている。段丘面の中では最も水田化が進んでいる。 中位段丘は古殿面と呼ばれ、標高20~30mに分布する。最も広い平坦面を持ち、段丘面を横断する由良川・井関川・植松川・沢波川などによって、佐山台地・岩倉台地・古殿台地・西岐波台地・常磐台地などに分かれていた。畑として利用されているほか、学校や病院などの施設も立地している。 標高30~50mに分布する高位段丘は、王子面と呼ばれている。侵食が進み、小起伏の丘陵性台地となっている。森林・果樹園・畑地などの土地利用が見られる。各段丘の形成期は、王子面が更新世中期、古殿面・丸尾原面が更新世後期とされているが、時代決定の決め手に欠けている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
屏風岩	海岸地形 > 海食崖	Coa-clif-1-1-YAGC	④	線	A
所在地		図幅名			
山口県 長門市青海島		2.5万 通(山口)			
解説	<p>青海島東端にある海食崖。ほぼ北向きに長さ約500m、高さ50～110mの急崖がつづく。地質は白亜紀の石英安山岩～流紋岩質凝灰岩類からなる。屏風岩の周囲には、東に多数の離れ岩(群礁)が浮かぶ「松島」、北に離れ島の「仏岩」・「烏帽子岩」、そして群礁の「潮場の鼻」がある。</p> <p>青海島は、大正15年10月、国の名勝・天然記念物に指定。北長門海岸国定公園の一部である。島を一周する観光船があり、沖合から観察することが出来る。</p> <p>見よ→青海島北岸：Coa-coas-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
川尻岬の海食崖	海岸地形 > 海食崖	Coa-clif-1-2-YAGC	④	線	A
所在地		図幅名			
山口県 大津郡油谷町		2.5万 長門川尻(小串)			
解説	<p>向津具半島最北端にある川尻岬周辺の海食崖。川尻岬は向津具半島から日本海に蟹の手状に突き出した小さな岬で、周囲は高さ数十m～百数十mの海食崖で取り巻かれている。向津具半島でキャップロック状にのる第三紀玄武岩は、この付近では海岸部まで覆っており、海食崖には柱状節理が見られる。この玄武岩は、磁場の逆転現象(東岸側は逆帯磁が多く、西岸側は正帯磁のものが多く。)が見られることで知られている。</p> <p>一帯は西長門海岸県立自然公園の一部である。岬の先端の高台には灯台が設置されている。釣り場やキャンプ場がある。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
疊岩と屏風岩	海岸地形 > 海食崖	Coa-clif-1-3-YAGC	③	中線	A
所在地		図幅名			
山口県 阿武郡須佐町		2.5万 須佐(山口)			
解説	<p>山口県北東部の須佐湾周辺は、阿武山地の西部が沈水した沈水海岸である。須佐湾口から北へ約2kmのところには「疊岩」と呼ばれる海食崖がある。また、湾口から西へ約1kmのところには、「屏風岩」と呼ばれる海食崖もある。ともに本域の岩石海岸を代表的する海食崖である。</p> <p>疊岩は砂岩と頁岩の互層からなる美しい縞目の海食崖として知られている。一般的には「須佐のホルンフェルスの大断層」と呼ばれることが多い。砂岩と頁岩の互層が斑礫岩の貫入によって接触変成し、ホルンフェルスとなったものである。この付近の接触変成の度合いは弱いという。</p> <p>屏風岩は数10m～130mの海食崖の連続する地形である。須佐湾口の金欄崎の南から、西へ約2kmの金井崎まで続く。数十の岩脈が見られ、崖下には海食洞も見られる。陸上からの観察路がなく、遊覧船などの海上からの観察となる。</p> <p>疊岩・屏風岩を含む須佐付近の海岸線は、北東の白ヶ瀬から南西の金井崎までが、昭和3年3月、国の名勝および天然記念物として指定された。また、北長門海岸国定公園の一部でもある。</p> <p>見よ→須佐湾周辺：Coa-coas-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大吼谷の蝙蝠洞	海岸地形 > 海食洞	Coa-cave-1-1-YAGC	④	線U	A
所在地		図幅名			
山口県 豊浦郡豊浦町小串		2.5万 小串(小串)			
解説	<p>響灘に突出する小半島(笠松ノ鼻)の西～北面を取り巻く海食崖に形成された海食洞。花崗岩質の海食崖は「切石」と呼ばれる高さ約60mの断崖で、本洞はその北西端にあり、北に口を開けている。洞口は、海面からの高さ約4m、幅約2mと縦に細長く、奥行きは約80m。奥部では高さ6m、幅10mになるところもある。洞内は小船で観察できるという。</p> <p>洞内には、ユビナガコウモリが生息している。国の天然記念物に指定された(昭和3年3月指定)。本洞の東側には、「お陸三吼谷」と呼ばれるやや小規模な海食洞がある。</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
黄金洞	海岸地形 > 海食洞	Coa-cave-1-2-YAGC	②	線U	A
所在地		図幅名			
山口県 長門市青海島		2.5万 青海島北部(山口)			
解説	青海島の北西端にある海食洞。北に大小2つの海食洞が開口しており、「夫婦洞」とも呼ばれる。東側の海食洞が大きく、奥行きは約80m、高さ32m、幅は洞口で13m。西側のものは、洞口幅約8mでやや規模が小さい。どちらも観光船が入ることが出来る。				
	青海島の中～西部にかけての海食崖や離れ島には、海食洞や海食洞門が多数発達している。比較的規模の大きなものには、「黄金洞」「観音洞」「大門」「小門」「島見門」「凱旋門」などの名が与えられている。島の中央部にある長浜群洞には、60もの小洞穴が連続して開口している。				
	青海島は、大正15年10月、国の名勝・天然記念物に指定。北長門海岸国定公園の一部である。島を一周する観光船があり、沖合から観察することが出来る。地元では海食洞をエラと呼んでいる。				
	見よ→青海島北岸: Coa-coas-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
観音洞	海岸地形 > 海食洞	Coa-cave-1-3-YAGC	③	線U	A
所在地		図幅名			
山口県 長門市青海島		2.5万 青海島北部(山口)			
解説	青海島北西端の海食洞「黄金洞」から南東約700mにある海食洞。長さ約30m、高さ約9m、洞口幅8m。観光船が通り抜けできる海食洞門である。観音洞を抜けた東側に長さ15m、高さ約6mの「太鼓洞」がある。これも貫通しており海食洞門である。両者を併せて約50m長となる。				
	青海島は、大正15年10月、国の名勝・天然記念物に指定された。北長門海岸国定公園の一部でもある。島を一周する観光船があり、沖合から観察することが出来る。				
	見よ→青海島北岸: Coa-coas-1-1-YAGC, 黄金洞: Coa-cave-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
武久海岸北方のノッチ	海岸地形 > ノッチ(海食窪)	Coa-notc-1-1-YAGC	⑤	微	B
所在地		図幅名			
山口県 下関市武久町・新垢田西町		2.5万 下関(福岡)			
解説	下関市西部は響灘に面し、海岸線はほぼ南北に延びている。そのなかの中心市街地や北寄りには、砂浜海岸の武久海水浴場がある。この砂浜から北方は、響灘に突き出した海食崖や波食棚のある岩石海岸になっている。新垢田西町付近では台地状の地形を侵食して20～30mの海食崖を形成している。海食崖の基部には、礫岩や砂岩からなる第三紀の幡生層(武久礫岩)を削り込んでノッチ(海食窪)や海食洞が形成されている。ノッチは高さ2～3m、奥行き1～2m、海食洞は三角形の開口を持ち、奥行き浅いものが多い。崩れかかったものもある。礫岩からなる波食棚も見られる。海食崖の上は、崖の近くまで住宅地としての開発が進んできている。北端では、国土交通省の沖合人工島「長州出島」への出入り口として、架橋工事が進んでいる。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
龍宮の潮吹き	海岸地形 > 潮吹き穴	Coa-bhol-1-1-YAGC	*②	微	A
所在地		図幅名			
山口県 大津郡油谷町津黄		2.5万 長門古市(山口)			
解説	海食洞などの上部に断層や節理などの侵食に弱い部分があると、そこが崩落し貫通して小穴ができる。潮吹きは、海食洞内に入った波が洞内の空気を圧縮し、この小穴から海水を一気に吹き上げる現象である。				
	向津良半島の最高峰・雨乞山(標高347.0m)の北北東約2.3kmの海岸にある潮吹き穴は、「龍宮の潮吹き」と呼ばれ、安山岩帯のなかの流紋岩が侵食されてできた小穴(縦約1m、横約0.2m)である。北東の風が吹き、海が荒れているときには、吹き上げられた海水は高さ30mに達するという。				
	昭和9年8月、国の名勝および天然記念物に指定された。西長門海岸県立公園の一部である。潮吹きは龍神のなせるわざとして信仰を集め、旱魃時には雨乞いが行われたという。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
三ヶ瀬	海岸地形 > 岩礁	Coa-reef-1-1-YAGC	④	中S	A
所在地		図幅名			
山口県 豊浦郡豊北町角島		2.5万 阿川(小串)			
解説	角島は山口県の北西端から海士ヶ瀬戸を挟んだ、西方の響灘にある小島で、東北東-西南西方向に細長く延びている。その角島の北岸から約3km沖に、北東-南西方向に細長く延びる岩礁がある。長さ450m、幅は約100m。岩礁中には幾つかの岩島も見られ、「三ヶ瀬」と呼ばれている。				
	西長門海岸県立自然公園の一部である。海士ヶ瀬戸には平成12年3月、角島大橋が架橋された。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
じゅうろくらのさん 十六羅漢	海岸地形 > 岩礁	Coa-reef-1-2-YAGC	③	中	A
所在地		図幅名			
山口県 長門市青海島		2.5万 青海島北部(山口)			
解説	<p>青海島の北岸のほぼ中央部にある岩礁。海食崖の続く海岸線から約250m沖合まで波食棚が広がり、その上に「かもめ岩」など多数の岩礁(離れ岩、岩柱)が林立している。青海島を代表する景観として、しばしば写真などで紹介されている。青海島の岩礁には、十六羅漢より規模は小さいが「松島」「潮場の鼻」などの岩礁がある。</p> <p>青海島は、大正15年10月、国の名勝・天然記念物に指定。北長門海岸国定公園の一部である。島を一周する観光船があり、沖合から観察することが出来る。</p> <p>見よ→青海島北岸: Coa-coas-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
にじがはま 虹ヶ浜	海岸地形 > 砂浜	Coa-beac-1-1-YAGC	③	中線	C
所在地		図幅名			
山口県 光市		2.5万 光(中津)			
解説	<p>島田川は花崗岩類からなる丘陵性山地を南西に流下し、光市の海岸から瀬戸内海に注ぐ。虹ヶ浜は島田川河口の右岸から、西へ約2km、門蔵山(標高34.5m)の麓まで続く砂浜である。渚側の幅約50mは白砂の砂浜をなす。背後の浜堤付近は、藩政時代の植林による松林が続いていたが、しだいに道路や住宅地・工業用地へと減少している。さらに内陸部には、数列の浜堤列とその間の堤間湿地があったが、ここも市街地化・住宅地化などにより改変を受けている。同様の地形は、かつては島田川左岸にも広がっていたが、戦前に光海軍工廠用地として、戦後は臨海工業用地として改変(埋め立てなど)が進み、その面影は残っていない。</p> <p>瀬戸内海国立公園の一部。「日本の白砂青松・百選」や「日本の渚・百選」に選ばれている。島田川河口には西側から閉塞性の砂州が形成されており、虹ヶ浜からの砂の流出が生じていると考えられる。虹ヶ浜では、砂の補給などの養浜事業が行われている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
あきとら 秋穂浦の浜堤	海岸地形 > 浜堤	Coa-beac-2-1-YAGC	④	中線	C
所在地		図幅名			
山口県 吉敷郡秋穂町		2.5万 台道(山口)			
解説	<p>周防灘に指のように突き出した小半島(秋穂半島)に囲われた秋穂湾奥部にある浜堤。東の秋穂浦から黒潟南を経て、緩やかに南に弧を描きながら延び、西の小山(標高62m)の麓の長浜集落に至る。長さ約1.8km、幅100m前後。標高は5~6m。長浜側では、浜堤は分岐し、撥状に広がっている。</p> <p>浜堤の南の秋穂湾側は、遠浅で、干潟が広がる。北側は元禄年間の干拓によってできた黒潟開作地が広がっている。秋穂浦の浜堤は、もとは秋穂浦と長浜の間に形成された砂州(陸繋砂州)であり、背後の干拓地はかつての潟湖(ラグーン)性の低湿地であった。</p> <p>浜堤上は集落・墓地・畑・松林、一部は工場として利用されている。浜堤西部では護岸の前面にテトラポッドが設置されている。秋穂湾は「クルマエビ養殖発祥の地」と言われ、漁港の施設のほか、養殖場・内海栽培漁業センター・水産試験場などがある。浜堤背後の干拓地(黒潟開作)は大部分が水田となっている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
まき 岐波の浜堤	海岸地形 > 浜堤	Coa-beac-2-2-YAGC	④	線	C
所在地		図幅名			
山口県 宇部市東岐波		2.5万 宇部東部(中津)			
解説	<p>J R宇部線岐波駅の東約400mにある浜堤。北東の小山(日ノ山、標高146.1m)の麓から、南西の宇部台地の崖下に至る約900m間に発達する。浜堤の幅約200m。北東端では植松川が、南西端では五反田川が浜堤を切って海に流入している。内陸側には2列の浜堤があり、全体で3列の浜堤列とその間の低地を形成している。これら3列の浜堤の形成期は、発掘された遺跡などから、縄文・古墳・奈良時代と見られている。</p> <p>浜堤列上は集落・墓地・畑・樹林となっており、堤間湿地は多くが水田となっている。このため、2万5千分の1地形図上からも3列の浜堤を復元できる。</p>				



名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
仙崎の砂洲	海岸地形 > 砂洲	Coa-bar-1-1-YAGC	④	中S	C
所在地		図幅名			
山口県 長門市仙崎		2.5万 仙崎(山口)			
解説	<p>長門市の中心市街地仙崎が立地する砂州。砂州は2本あり、東の仙崎湾側では、南東の白湯付近から北西に、西の深川湾側では、南西の深川川河口から北東に、それぞれ緩やかな弧を描きながら延びている。両砂州は仙崎付近で一体となって、北に位置する青海島に三角形の突出した地形を形成している。このようなタイプの砂州は、尖角岬と呼ばれている。</p> <p>青海島との間には、幅約100mの仙崎瀬戸が残されている。両砂州の間は、南部を中心に水田地帯が広がっており、ここはかつてのラグーン(潟湖)と考えられる。また、三上山や田屋の小山(標高43m)は、砂州の発達により陸封されたかつての島である。</p> <p>現在、尖角岬の北部は、港町・仙崎の市街地となっており、その東海岸には埋立地や防波堤・突堤などの港湾施設が設けられている。西側砂州は海岸侵食を受けており、市街地付近では突堤が設けられ、それ以南では多くの離岸堤が設置されている。仙崎瀬戸には青海大橋が架橋されている。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
波の橋立	海岸地形 > 砂州	Coa-bar-1-2-YAGC	*②	線	B
所在地		図幅名			
山口県 長門市青海島		2.5万 仙崎(山口)			
解説	<p>青海島の南西部にある砂州。砂州の内側に潟湖(ラグーン)を抱える。青海島北岸は、海食崖が発達する海岸であるが、南岸の内湾側は入り江の多いリアス式海岸となっている。波の橋立は、青海島南東端の青海集落の南に広がる入り江の湾口に、西北西から東南東にほぼ直線的に延る砂州である。長さ約1.2km、幅約50m。この砂州は5~6cm程度の扁平な礫からなる礫州である。</p> <p>深川湾から切り離された入り江は、「青海湖」(海跡湖・潟湖)となった。青海湖の水は砂州の東端から深川湾に排水されている。砂州上は松が植林され、深川湾側には、波の侵食を防ぐための多数の低い突堤が櫛の歯状に設けられている。</p> <p>青海島は、大正15年10月、国の名勝・天然記念物に指定された。北長門海岸国定公園の一部である。</p> <p>見よ→青海湖: Coa-lago-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
象鼻ヶ岬	海岸地形 > 砂嘴	Coa-spit-1-1-YAGC	③	線	C
所在地		図幅名			
山口県 光市室積		2.5万 光(中津)			
解説	<p>光市の室積の町が立地する小半島(室積半島)は、トンボロと陸繋島からなる。その南東端から北北東方向に突き出した岬が砂嘴の「象鼻ヶ岬」である。長さ約400m、幅は約30m。先端部は人為の影響もあって丸くふくらんだ形状を示す。</p> <p>象鼻ヶ岬の砂礫はやや黒っぽいものが多いことから、泥岩質の岩石からなる室積半島南部(峨嵋山南麓)を波や沿岸流が侵食・運搬したものと考えられる。</p> <p>室積海岸から半島一帯にかけては、瀬戸内海国立公園に指定されている。象鼻ヶ岬の先端には、嘉永3(1850)年、対外防衛のために築かれた台場跡があるなど、人為的な改変が加えられている。</p> <p>見よ→室積半島: Coa-tomb-1-1-YAGC</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
室積半島	海岸地形 > トンボロ及び陸繋島	Coa-tomb-1-1-YAGC	*②	中S	C
所在地		図幅名			
山口県 光市室積		2.5万 光(中津)			
解説	<p>光市室積の町が立地する小半島(室積半島)は、トンボロと陸繋島からなる。周防灘に面する山口県南東部の海岸は北西-南東方向に直線的に延び、ここから、鉤の手状に突き出した小半島が室積半島である。峨嵋山(標高116.9m)を主峰とするかつての離れ島が、砂嘴の発達により本土と繋がれた。小規模ではあるが典型的なトンボロ(陸繋砂州)と陸繋島の地形である。</p> <p>半島西方には、半島の西約5kmの島田川河口から運ばれた土砂によって、砂浜(室積海岸)が形成され、半島にまで到達している。半島東部では、峨嵋山南麓を侵食した波や沿岸流によって、先端部に小砂嘴(象鼻ヶ岬)を形成している。その内側は、波静かな室積湾(御手洗湾とも呼ばれる)となっている。</p> <p>室積海岸から半島一帯にかけては、瀬戸内海国立公園の一部である。また、峨嵋山一帯は「峨嵋山樹林」として国の天然記念物に指定されており、南麓の海岸は「光のクサフグ産卵地」として県の天然記念物に指定されている。トンボロの南西部には干拓地・埋立地がある。</p> <p>見よ→象鼻ヶ岬: Coa-spit-1-1-YAGC</p>				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
越ヶ浜と笠山	海岸地形 > トンボロ及び陸繋島	Coa-tomb-1-2-YAGC	③	中S	C
所在地		図幅名			
山口県 萩市越ヶ浜	2.5万 越ヶ浜 (山口)				
解説	萩市北方4km, 日本海に突出した小半島は, 玄武岩質安山岩からなる溶岩台地の上にスコリア丘 (笠山, 標高112.2m) をのせた地形である。溶岩台地を含め笠山はもと島であったが, 砂嘴の発達によって本土側と結ばれ陸繋島となった。陸繋砂州 (トンボロ) は東西の長さ約400m, 幅は約120m (現在は南北両岸に数十m幅の埋立地が付加されている), 礫・砂で構成される。				
	トンボロの西端部, 陸繋島との付け根に当たる部分には, このトンボロによって閉じこめられた潟湖 (明神池) が残されている。また, その西側の笠山の東麓には風穴がある。トンボロ上は古くから越ヶ浜の集落が立地した。その両側は漁港 (北は嫁泣港, 南は夕和港) となっており, 防波堤が築かれている。一帯は, 北長門海岸国定公園の一部となっている。				
	見よ→笠山: Vol-phm-1-1-YAGC, 明神池: Coa-lago-1-2-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
八ヶ浜	海岸地形 > 砂丘・風紋	Coa-dune-1-1-YAGC	④	中S	C
所在地		図幅名			
山口県 豊浦郡豊浦町	2.5万 川棚温泉 (小串)				
解説	豊浦町室津下にある甲山 (標高117.4m) の麓から, 北東の同町浦田後地の丘陵 (標高40m強) までの間は, きれいな半月状をした砂浜海岸 (八ヶ浜海岸) となっている。砂浜の両端では山地が海に迫っているが, 砂浜を切って海に流れる黒井川と吉永川の間 (約1.4km) は, 背後に低地が開け, 幅広く砂が堆積し, 砂丘を形成している。砂堆の幅は, 両河川間では400~800m, 砂堆の南部に標高20mを超える砂丘がある。				
	砂丘の背後には, 八ヶ浜の集落がある。砂堆や砂丘上は, 現在は大部分がゴルフ場になっている。海岸線に並行して離岸堤が設置されている。砂堆を横切る区間の黒井川は, 宝暦4 (1754) 年に掘削された人工の川筋である。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
綾羅木海岸	海岸地形 > 砂丘・風紋	Coa-dune-1-2-YAGC	⑤	中S	C
所在地		図幅名			
山口県 下関市綾羅木町~安岡本町	2.5万 安岡 (小串) ・下関 (福岡)				
解説	下関市北西部, 響灘に面した鼻ヅラ付近から, 北の村崎ノ鼻付近までは, 緩やかな弧を描く砂浜海岸 (綾羅木海岸, 全長約2.5km) になっている。砂堆の幅0.5~1km。背後に沖積低地や洪積台地が広がる。砂堆上には小規模な3列の砂丘が認められているが, 著しく人工改変を受けている。				
	砂浜は海水浴場として市民の憩いの場となっているが, 綾羅木川河口にはマリーナの施設が造られたり, 砂浜の背後まで住宅化されるなど, 開発が進んでいる。このほか, 南部には離岸堤が, 綾羅木川河口には海に向かって200m程の導流堤が, 河口北部の砂浜には護岸工が施工されるなど, 多くの人工改変が加えられている。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
青海湖	海岸地形 > 潟湖 (ラグーン)	Coa-lago-1-1-YAGC	③	中S	B
所在地		図幅名			
山口県 長門市青海島	2.5万 仙崎 (山口)				
解説	青海島の南西部にある潟湖 (ラグーン)。砂州によって海から切り離された海跡湖である。青海島北岸は, 海食崖が発達する海岸であるが, 南岸の内湾側は入り江の多いリアス式海岸となっている。				
	青海湖は青海集落の南に広がる入り江の湾口に砂州「波の橋立」 (長さ約1.2km, 幅約50m) が発達し, 深川湾と切り離されることによって生じた。青海湖は山口県では最大の湖である。湖には北の青海集落方向から流入する2本の河川によって, 小規模な三角州が形成されている。波の橋立の東端から海に排水している。				
	青海島は, 大正15年10月, 国の名勝・天然記念物に指定された。北長門海岸国定公園の一部である。湖の西部には干拓地が見られる。 見よ→波の橋立: Coa-bar-1-2-YAGC				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
明神池	海岸地形 > 潟湖 (ラグーン)	Coa-lago-1-2-YAGC	③	中S	B
所在地		図幅名			
山口県 萩市越ヶ浜		2.5万 越ヶ浜 (山口)			
解説	萩市北方4kmの日本海に突出した小半島は、玄武岩質安山岩の溶岩台地の上にスコリア丘(笠山)をのせている。溶岩台地を含め笠山はもと島であったが、砂嘴の発達によって本土側と結ばれ陸繋島となった。陸繋島と本土の間を繋ぐ砂州がトンボロ(陸繋砂州)である。このトンボロの西端と陸繋島(笠山)との間には、トンボロによって閉じこめられ形成された明神池がある。砂州によって閉じこめられた海面であり、潟湖(ラグーン)である。海の一部が取り残されていることから海跡湖とも言われる。				
	明神池は三方が玄武岩質安山岩の溶岩によって囲われ、残りが砂州の砂礫によって閉ざされている。池は東の砂州側にある大池と陸繋島側にある小規模な中の池、奥の池の3つからなる。大池は長径120m、短径100m程度の広がりを持ち、最大深でも5mを超えない。天然の塩水池で、地下で外海とつながっている。巖島神社の境内にあたり、池は三方を石垣で取り巻かれた人為的形狀を呈する。				
	明神池を含む、笠山一帯は眺望もよく、椿の名所として観光地化しており、行楽期などには車の往来も多い。車の往来が激しくなってきたからは、道路の踏み固めで、地下の海水の流通が悪くなったという。				
	大正13年12月、国の天然記念物に指定された。一帯は、北長門海岸国定公園の一部となっている。 見よ→笠山: Vol-phm-1-1-YAGC, 越ヶ浜と笠山: Coa-tomb-1-2-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
大海湾の干潟	海岸地形 > 干潟	Coa-tida-1-1-YAGC	⑤	中	C
所在地		図幅名			
山口県 防府市・吉敷郡秋穂町		2.5万 防府・台道 (山口)			
解説	佐波川は防府三角州の西部を抜けて大海湾に流出している。大海湾は秋穂半島の山地や陸封されたかつての山島などに囲まれた入り江で、河川の土砂の運搬・埋積により、広い干潟が三角州の前面に形成されている。				
	佐波川河口では、近世以降の干拓(右岸では佐野開作・川開作・小島開作、左岸では泥江開作・植松開作・新開作・西浦干拓など)が進んだため、干潟の面積は減少した。現在、干潟は大海湾の約3分の1を占めるにすぎない。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
木屋川河口周辺の干潟	海岸地形 > 干潟	Coa-tida-1-2-YAGC	④	中	B
所在地		図幅名			
山口県 下関市・厚狭郡山陽町		2.5万 小月 (山口)			
解説	周防灘の北西部は鈍角に開いた三角形の入り江(ここでは小月湾と呼ぶことにする)となっている。この小月湾の北端には、長門丘陵を開析しながら、南西に流下してきた木屋川が口を開けている。小月湾では木屋川河口を中心に、東西沿岸の広い範囲が干潟となっている。湾西部の下関市長府付近から、湾東部の山陽町填生にかけては、沿岸から幅500m以上の干潟が連続する。最も幅が広がるのは、木屋川河口から南の沖合に広がる部分で約3.5kmに達する。木屋川や小河川の神田川・前場川の川筋(滞)は、やや水深が深くなっている。				
	小月湾に広い干潟が広がっているのは、氷期の海面低下時に、陸化していた周防灘を東へ流下する河川の最上流部にこの付近は当たっており、元々浅い海域であったことに起因している。				
	小月湾周辺は沈水性の海岸で、自然に形成された陸側の平地は極めて狭かったため、干潟の干拓や埋め立てが近世以降盛んに行われ、現在は、農地・工業用地・海上自衛隊基地などに利用されている。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
万倉の大岩郷	気候地形 > 岩塊流 (岩塊斜面を含む)	Cli-bflo-1-1-YAGC	③	線	B
所在地		図幅名			
山口県 美祢市伊佐町奥万倉		2.5万 伊佐 (山口)			
解説	万倉の大岩郷は美祢市奥万倉の有帆川上流の谷の東へ約1km、長門丘陵中の山(標高440.3m)の中腹(標高350m付近)の南斜面にある。浅い谷を埋めるように多数の岩塊が集積している。このような地形は岩塊流と呼ばれる。				
	集積した巨礫の径は1~6m、厚さ数m以上に堆積し、広さは27haに及ぶ。礫が露出し観察しやすい範囲は、標高300m付近の幅100m、奥行き150mの範囲である。この部分には、礫の間の充填物(マトリックス)はほとんどない。礫種は付近の山体と同じ花崗閃緑岩である。全体として、緩傾斜の山地斜面の浅い谷を埋めるように巨礫が分布する。この地点から、東南約3kmある「吉部の大岩郷」に比べ、全体に大きな礫が多い。				
	昭和10年12月、国の天然記念物に指定された。 見よ→吉部の大岩郷: Cli-bflo-1-2-YAGC				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
吉部の大岩郷	気候地形 > 岩塊流 (岩塊斜面を含む)	Cli-bflo-1-2-YAGC	③	線	B
所在地		図 幅 名			
山口県 厚狭郡楠町西吉部		2.5万 湯ノ口 (山口)			
解 説	楠町西吉部 (上市) の西約1.7km, 長門丘陵中の山 (標高329m) の中腹 (標高約190~260m) にあって, 北東方向に傾斜する浅い谷を埋めるように広がる岩塊流。				
	約15haの範囲に, 長径1~4mの巨礫が数mの高さに重なっている。北西約3kmのところにある「万倉の大岩郷」に比べ礫はやや小さいものが多い。礫が露出し観察しやすい範囲は, 幅10~40m, 奥行き150~200mの部分で, 礫の間の充填物 (マトリックス) はほとんどない。礫は付近の山体と同じ花崗閃緑岩である。				
	近くには巨礫の散在する類似した地形が認められ, 道路の建設によって露出した斜面には, 風化した基盤岩の上に, 風化した赤色のマトリックスで充填された巨礫がのっているのが観察される。成因についてはまだ定説がない。				
	昭和10年12月, 国の天然記念物に指定された。 見よ→万倉の大岩郷: Cli-bflo-1-1-YAGC				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
周防高原	その他の地形 > 隆起準平原	Mis-pene-1-1-YAGC	③	大	B
所在地		図 幅 名			
山口県 玖珂郡由宇町・周東町・徳山市・防府市・山口市ほか		5万 岩国 (広島)・徳山・防府 (山口)			
解 説	山口県の東南部, 瀬戸内海側には, 小起伏の山頂や盆地がほぼ連続的に分布する。東は由宇町の海岸近くから, 徳山市・防府市を経て山口市東部に至る範囲である。広い意味では秋吉台もその一部である。これらの小起伏山地は, おおむね400~700mの定高性のある山頂を持っている。このため, 中国地方の代表的な小起伏面「吉備高原面 (一部は羅織台地面)」に対比されている。				
	由宇町から山口市にかけての周防高原は, やや詳しく見ると標高の異なる上・中・下3つの小起伏面に分類できる。各面の境界部は, やや急な山腹斜面に取り巻かれ, 山頂に小起伏面をのせ, 全体として台地状の形状を呈している。				
	上位の小起伏面は, 東から由宇町西方の高照寺山 (標高645.3m), 玖珂盆地北方の物見ヶ岳 (標高709m), 八代盆地北の岡山 (標高597.4m), 八代盆地東の烏帽子岳 (標高696.6m), 防府市街地東部にそびえる大平山 (標高631.3m) などの山頂周辺に分布し, 面的な広がり狭く, 相互に隔てて分布する。				
	中位の小起伏面は, 標高500m前後の山頂面からなる。広く分布するのは高位面の岡山と烏帽子岳の間の周東町樋余地 (樋余地高原とも呼ばれる) のみである。ほかには高照寺山の南部, 大平山周辺, 山口市東方の蕎麦ヶ岳 (標高556.9m) 付近に小規模に分布している。				
	低位の小起伏面は, 標高400m前後に分布し, 山頂のみならず, 盆地も含み, 他の2面に比べ, 広い面積を占める。その中で連続性が最も顕著なところは, 徳山市北部の須々万盆地や八代盆地とその周辺である。この小起伏面は, 須々万盆地から北西方向へ錦川の河谷を遡った鹿野盆地の盆地底につながっている。この他, 高照寺山周辺, 大平山北部, 山口市東部の蕎麦ヶ岳南東部などにも低位面が点在している。				
	盆地底やその周辺の小起伏面は, 集落や耕地, 工場・ゴルフ場として利用されているところもある。				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
長門丘陵	その他の地形 > 隆起準平原	Mis-pene-1-2-YAGC	②	大	B~C
所在地		図 幅 名			
山口県 宇部市・小野田市・厚狭郡楠町・吉敷郡阿知須町ほか		5万 厚狭・小郡 (山口)・宇部・宇部東部 (中津)			
解 説	長門丘陵は広い意味では, 山口県西部一帯の丘陵を指すが, ここでは宇部市・小野田市・厚狭郡楠町付近に分布するおおむね標高200m以下の丘陵を指す。面積的には標高150m以下の丘陵が大部分を占める。長門丘陵は内陸側に位置する標高150~100mの厚狭丘陵と, その南の瀬戸内海沿岸側に位置する標高100m以下の宇部丘陵に分けることができる。丘陵中には宇部市北部の宇部丘陵中の霜降ヶ岳 (標高250.2m) のような, 残丘状の丘陵~小山体が何カ所か残されている。両丘陵の広がり, 北東-南西方向の構造線に支配された河川 (厚東川・有帆川・厚狭川など) の侵食や海岸線によって支配されている。				
	山口県西部一帯に分布する標高300m以下の定高性のある丘陵頂面は, 貝塚 (1950) によって「瀬戸内面」と命名された。その後, 藤原 (1996) は内陸側の250m以下の丘陵面を瀬戸内面Ⅰ面, 沿岸部に広がる標高100m以下の下位の丘陵面を瀬戸内Ⅱ面に分類した。この分類に従うと, ここで区分した標高150~100mの厚狭丘陵は瀬戸内面Ⅰ面に相当し, 沿岸側に位置する標高100m以下の宇部丘陵は, 瀬戸内Ⅱ面に相当すると考えられる。				
	厚狭丘陵はやや内陸部に位置し, 標高も宇部丘陵に比べ高く, 傾斜も急なため, 谷底の水田や小集落を除いて, 多くは森林として残されている。宇部丘陵は瀬戸内海に向かって次第に高度を下げ, 南部から東部では, 高位の段丘面に移行している。かつては丘陵中の無従谷が, 溜池や水田として利用されるのみであったが, 工業都市の宇部市・小野田市に近接していることもあって, 近年では丘陵地の造成が進み, 山口テクノパークをはじめとする幾つもの大規模な工業団地が建設されている。そのほかにも, 工場や養鶏場・ゴルフ場・茶畑などに改変されている。				

名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
長野山山頂	その他の地形 > 準平原遺物	Mis-pene-2-1-YAGC	⑤	小	B
所在地		図幅名			
山口県 都濃郡鹿野町・玖珂郡錦町		2.5万 周防広瀬 (山口)			
解説	<p>長野山は徳山市北方の都濃郡鹿野町と玖珂郡錦町境に位置する標高1015.3mの山である。標高850m付近から山頂にかけては、谷は浅くなり、尾根の傾斜も緩やかになり、視界が開ける。この山頂付近の小起伏は、中国地方に発達する小起伏面の中の「脊梁山地面（道後山面）」に対比されており、準平原遺物と考えられている。小起伏面の範囲は山頂付近のごく狭い範囲である。</p> <p>長野山から南東に延びる尾根沿いにも小起伏地形が見られ、馬糞ヶ岳（標高985.2m）に続いている。一方、長野山北方には、尾根伝いに少し離れた、島根県境付近の標高968.2mや1016mの山頂周辺に小起伏面が分布する。さらに、その北から東に続く島根県境の尾根にある標高1000mを超える山頂にも、やや緩やかな斜面の連続が見られる（平家ヶ岳、標高1066.4mなど）。これらも長野山と同様の準平原遺物と考えられる。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
頂海山山麓	その他の地形 > ベディメント	Mis-pedm-1-1-YAGC	*④	中S	B
所在地		図幅名			
山口県 大島郡大島町		2.5万 大島・阿月 (松山)			
解説	<p>屋代島（周防大島）西部の頂海山（標高454.9m）の山麓部にはベディメント（山麓緩斜面）が見られる。ベディメント状地形の発達するのは、おもに北部と西部山麓である。</p> <p>北部の緩斜面（大島町西屋代）は、全体的に緩斜面部に谷や尾根が少なく、面的に緩斜面が分布する。標高はほぼ100m以下に発達している。このタイプの典型例として知られる広島県三原市南方の高根島の緩斜面と似たタイプといえる。</p> <p>一方、海に面した西部（大島町志佐）の緩斜面は、標高100～200m以下に発達し、開析が進み、緩斜面化した尾根・谷の地形が見られる。地質は標高200～300m以上の山頂部は、瀬戸内層群（安山岩類）からなり、山麓部は領家花崗岩類に属する古期花崗岩類（ミグマタイト）からなる。傾斜の変換点と地質の差とは一致しない。また、同じ古期花崗岩類からなる斜面でも緩斜面の発達しないところもある。</p>				
名称	地形種>項目	コード	重要度	規模	保存度
火ノ山山麓	その他の地形 > ベディメント	Mis-pedm-1-2-YAGC	*④	中S	B
所在地		図幅名			
山口県 山口市向山		2.5万 台道 (山口)			
解説	<p>周防灘に細く口を開けた山口湾の奥部の東にある山塊は、山麓に向かって緩やかに尾を引いたような地形が目につく。この南北に稜線が延びる火ノ山（標高303.6m）山塊の東西の山腹から山麓にかけての斜面は、ベディメント（山麓緩傾斜面）特有の上方に凹型の形態を呈している。</p> <p>山塊は全城花崗岩からなり、尾根に近い急斜面を中心に、基盤岩の岩肌がしばしば露出している。山麓の緩斜面は開析を受け、ナマコ状の尾根とその間の浅い谷が見られる。南西斜面では、斜面末端に礫層（宇部台地を構成する吉南層に対比される）が分布する。東側斜面には、開析の少ない面的な広がりを持つ斜面も残されており、赤色風化層と亜角礫の巨礫の混ざった土層が見られる。</p> <p>傾斜が緩やかになる下方に向かって、森林・果樹園、さらには畑・集落・水田へと土地利用は移行している。</p>				

## 文 献

- 猪木幸男編 (1991) 『日本地質図大系 中国・四国地方』朝倉書店, 120ps.
- 大竹義則・林正久 (2006) 中国地方の地形環境 1－鳥取県・島根県・岡山県－. 徳山大学総合研究所紀要, 27・28, 19－74.
- 太田陽子・成瀬敏郎・田中眞吾・岡田篤正 (2004) 『日本の地形 6－近畿・中国・四国』東京大学出版会, 382ps.
- 小畑 浩 (1991) 『中国地方の地形』古今書院, 262ps.
- 活断層研究会(1991)『新編日本の活断層』東京大学出版会, 437ps.
- 角川日本地名大辞典編纂委員会編 (1988) 『角川日本地名大辞典－35 山口県』角川書店, 1470ps.
- 建設省計画局・山口県編 (1966) : 『山口県周南地区の地盤－都市地盤調査報告書 13』, 110ps.
- 小泉武栄・青木賢人 (2000) 『日本の地形レッドデータブッカー第 1 集－危機にある地形』古今書院, 210ps
- 国土交通省中国地方整備局・国土地理院 (2001) 『中国地方の古地理に関する調査報告書』 152ps.
- 日本第四紀学会編 (1987) 『日本の第四紀地図 解説』東京大学出版会, 119ps.
- 藤原健蔵編著 (1996) 『地形学のフロンティア』大明堂, 377ps.
- 山口恵一郎ほか (1975) 『日本図誌大系 中国』朝倉書店, 396ps.
- 山口県教育会編 (1982) 『山口県百科事典』大和書房, 1001ps.
- 山口県立博物館 (1975) 『山口県の地質』山口県立博物館, 286ps.
- 山口地学会編 (1980) 『日曜の地学 山口の地質をめぐって』築地書館, 234ps.
- 山口地学会編 (1984) 『山口県 地学のガイド』コロナ社, 316ps.
- 山口県 (1974) 『土地分類基本調査－西市 5万分の1－』 32ps.
- 山口県 (1975) 『土地分類基本調査－山口 5万分の1－』 40ps.
- 山口県 (1978) 『土地分類基本調査－大竹 5万分の1－』 53ps.
- 山口県 (1978) 『土地分類基本調査－徳山・光 5万分の1－』 44ps.
- 山口県 (1974) 『土地分類基本調査－萩・相島・見島 5万分の1－』 39ps.